

高等学校 令和6年度（2 学年用） 教科 国語 科目 論理国語
教 科： 国語 科 目： 論理国語 単位数： 2 単位
対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 9 組
教科担当者： （1 組：）加藤 （2 組：）加藤 （3 組：）磯井 （4 組：）磯井 （5 組：）加藤 （6 組：）磯井
（7 組：）磯井 （8 組：）磯井 （9 組：）加藤
使用教科書： （ 探求論理国語（桐原書店） ）
教科 国語 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
実社会に必要な国語の知識や技能や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			読	書	聴					
1 学 期	●思考力と対比して論理力とは何かを考える。（読ア） ◇論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、批評したり討論したりする活動。（読ア）	☆長谷川眞理子「チンパンジーは〈おせっかい〉をしない」 ①「共感」についての分類を読み取る。 ②チンパンジーに対して行った実験の概要をまとめる。 ③「おせっかい」と相互理解との関係を理解させる。 ④「心」の共有による効果を把握し、「共感」という感情の意義について考える。			○	知・技 ・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。（(1)ウ） 思・判・表 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが ら要旨を把握している。（読ア） 主 ・進んで文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、論理の展開を的確に捉えて要旨を把握し、文章の内容について説明したり話し合ったりしようとしている。		○	○	4
	●「心とはなにか」について考える。（読オ） ◇同じ事柄について異なる論点をもつ複数の文章を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。（読エ）	☆黒崎政男「ロボットは心を持つか」 ①本文を通読し、構成と内容を大まかに捉える。 ②第一段落を確認し、ロボットと人間の違いや「心」の在り方についての理解を深める。 ③自分たちが持っているアンドロイドに対するイメージを確認したうえで、第二段落を読み、「キリスト教世界」におけるイメージとの相違について理解する。 ④筆者と石黒氏の主張を読み取り、理解したうえで自分の考えを持つ。		○	○	知・技 ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。（(1)ア） 思・判・表 ・関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。（読オ） 主 ・進んで言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする言葉の働きを理解し、学習課題に沿って、関連する文章の書き手の立場や目的を考えながら内容の解釈を深め、比較して論じようとしている。		○	○	4
	●「対話」の言葉のあり方を考える。（書イ） ◇特定の資料について、様々な観点から概要などをまとめる活動。（書ア）	☆平田オリザ『「対話」の言葉をつくる』 1 「私たちは、……忘れてはならない。」とあるが、その理由を説明する。 2 「その大きな積み残し……と私は考えてきた。」とあるが、筆者がこのように考えた理由をまとめる。 3 「新しい時代の、……確実な過渡期にある。」とは、どのようなことか説明する。 4 筆者の考える『「対話」の言葉』とは、どのようなものかまとめる。 5 近年、社内で個人を呼ぶときに役職で呼ばず、男女問わず「～さん」と呼び合う企業が増えていることについて、どう考えるか話し合う。	○	○		知・技 ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。（(1)ア） 思・判・表 ・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。（書イ） 主 ・進んで言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする言葉の働きを理解し、学習の見通しをもって、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら自分の立場や論点を明確にし、自分の考えをまとめようとしている。		○	○	4

●規範を失った日本の現状と「行先」について考える。(読エ) ◇社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を読み、それらの内容を基に、自分の考えを論述したり討論したりする活動。(読イ)	☆藤原新也「イスラム感覚」 ①タブレットを用いて、世界のさまざまな言語のさまざまな文字を調べる。 ②自然と文字、自然と宗教のかかわりについて、筆者が述べていることをつかむ。 ③風土と宗教の関係について理解する。 ④日本人と規範の関係について、歴史的な観点から読み取る。			知・技 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。(1)エ) 思・判・表 ・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。(読エ) 主 ・進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、論理の展開や表現の仕方について多面的・多角的な視点から評価し、文章の内容をもとに自分の考えを論述したり、討論したりしようとしている。				4
●「山月記」の論文を読み、自分の意見を持つ。(書ア) ◇設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述する活動。(書エ)	☆宮原浩二郎「変身に伴う快楽と恐れ-「山月記」を通じて ①さまざまな作品に描かれた「変身」を比較して「山月記」の李徴の変身の意味を捉える。 ②変身の本質とその対象となる人物の心情を考え、変身について自分の考えをまとめる。			知・技 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。(2)イ) 思・判・表 ・実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。(書ア) 主 ・進んで情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、学習の見通しをもって、様々な観点から情報を収集して適切な題材を決め、自分の考えを論述しようとしている。				4
●「言語」の働きについて考え、豊かな「言語」の使い手となるよう意識する。(書イ) ◇社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を参考にして、自分の考えを短い論文にまとめ、批評し合う活動。(書ウ)	☆大庭健「動物の信号と人間の言語」 ①「信号」と「言語」との違いに注意して全文を音読し内容をつかむ。 ②動物の信号と指示対象との関係から、「信号」が因果関係によるものであることを読み取る。 ③「言語」の特徴を意識しながら動物と「信号」との関係について読み取る。 ④「言語」の特徴を押さえたうえで、人間が現実を離脱した思考を持てることをつかむ。			知・技 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。(1)エ) 思・判・表 ・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。(書イ) 主 ・進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習の見通しをもって、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら自分の立場や論点を明確にし、自分の考えをまとめて批評し合おうとしている。				8

[illegible]

高等学校 令和6年度（2学年用）教科 国語 科目 文学国語・理系文学
教科：国語 科目：文学国語・理系文学 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1～9組

教科担当者：（1組：磯井）（2組：文系＝磯井、理系＝波多野）（3組：加藤）（4組：文系＝小田金、理系＝小池）
（5組：小田金）（6組：小池）（7組：波多野）（8組：小池）（9組：波多野）

使用教科書：（文国711『探究 文学国語』桐原書店）

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】 国語の知識や技能を身につけ、その特質を理解し、適切に使うことができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】 作品を正しく読み解く力をつけ、深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばす。
【学びに向かう力、人間性等】 言葉の価値への認識を深め、伝え合う力、生涯にわたり国語を尊重しその能力の向上を図る態度を養う。

科目 文学国語・理系文学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技術の身に付けるとともに、我が国の伝統文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって国語に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通じて他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	感	配当 時数
			話	聞	書					
1 学 期	☆文学評論 若松英輔 「もののふの心―言葉とコトバ」 ●文学の本質に迫った随想的な評論の読解 ◇「内容の把握」「思索の深化」	①全文を読んで、段落構成を考える。 ②第1段落「おもう」という言葉の意味。/谷川俊太郎の詩の引用意図。 ③第2段落「詩」と「詩人」の理解。/「言葉」と「コトバ」の違い。/様々な芸術における「コトバ」。 ④第3段落『古今和歌集 仮名序』の分析。 ⑤第4段落 筆者の主張のまとめ。	○	○	○	【知識・技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。（(1)ア） 【思考・判断・表現】 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。（Bウ） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、文章の構成や展開について積極的に評価し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。	○	○	○	6
	☆詩 森原朝太郎 天景・猫 宮沢賢治 永訣の朝 中原中也 サークス ●詩の言葉や表現技法の豊かさを知る ◇「文体の考察」「解釈の多様性」	①詩の言葉の多彩さ、変化の妙。 ②人生の悲痛な出来事を詩にするで、新たな生へと昇華させる様。 ③詩の言葉の組み合わせや音楽性が不思議で確かなリアリティーを生み出すこと。	○	○	○	【知識・技能】 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。（(2)ア） 【思考・判断・表現】 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。（Bウ） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで我が国の言語文化の特質について理解し、我が国の言語文化について自分の考えをもち、今までの学習を生かして我が国の言語文化について論述しようとしている。	○	○	○	2
	定期考査／返却&解説						○	○		2
	☆小説 中島 敦 「山月記」 ●虚構の真実、状況における心理のありようを読む ◇「題材の設定」「表現の工夫」	①作品の舞台をイメージする。 ②作品の構造をおさえる。 ③登場人物の人物像と心理の変化を読み取る。 ④李徴が虎に変身する敬意と心理を読み取る。 ⑤李徴の執着を理解する。 ⑥哀傷の視点から李徴の在り方をとらえる。 ⑦「人虎伝」との比較で作家の意図を考える。	○	○	○	【知識・技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。（(1)ア） 【思考・判断・表現】 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。（Bウ） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、文章の構成や展開について積極的に評価し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査／返却&解説						○	○		2
	☆随想 平野啓一郎「自分を解釈してもらおう喜び」 ●他者とのコミュニケーションによる新たな自己の発見 ◇「作品の理解」「題材との関連」	①「オーダーメイド」について関心をもつ。 ②全文を通読し、構成をつかむ。 ③それぞれの仕事についての筆者の考えを読み取る。 ④「オーダーメイド」「コミュニケーション」によって自分についての発見がもたらす喜びという主張を理解する。 ⑤現代に生きる我々の心理について話し合う。	○	○	○	【知識・技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。（(1)ア） 【思考・判断・表現】 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。（Bウ） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、文章の構成や展開について積極的に評価し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査／返却&解説						○	○		2

[illegible]

高等学校 令和6年度（2学年用）教科

国語

科目 古典探究

教科：国語

科目：古典探究

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年

教科担当者：（2組：小池）（3組：小池）（4組：小田金）（5組：小田金）（6組：小田金）（7組：加藤）
（8組：加藤）（9組：小池）

使用教科書：（古探711『高等学校 古典探究』数研出版）

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、

科目 古典探究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			話	・	聞	書	読				
1 学 期	☆説話 『十訓抄』『大江山』 ●作品を理解することで古典常識や編者の意図をおさえる。	①定頼「丹後へ遣はしける人は参りたりや。」の意図。 ②小式部が和歌で伝えようとしたこと。 ③「返歌にも及ばず～」の理由。 ④この話の教訓。					【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔124〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。〔A149〕 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に説話が示す教訓性について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	7
	☆故事 『世説新語』『漱石枕流』 『歴代名画記』『画意点晴』 ●故事成語の学習をとおして、漢文訓読の基礎を固める。	①孫子荊はどのように「漱石枕流」という言い間違いをとりつくろったか。 ②張僧繇はどのような画家として描かれているか。					【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔124〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。〔A149〕 【主体的に学習に取り組む態度】 故事成語の成り立ちについて進んで考察し、本文を解釈しようとしている。	○	○	○	7
	定期考査							○	○		1
	☆歌物語 『伊勢物語』『初冠』 『大和物語』『をばすて山』 ●歌物語の「みやびの精神」が後の物語文学へと受け継がれる流れを理解する。	①各歌の修辞の確認。 ②男がいていた「狩衣の裾」に和歌を書いた理由。 ③「かくいちはやきみやび」とは男のどのような言動を指しているか。 ④歌の類似点と相違点。					【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔124〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において作品の成立した背景や他の作品との関係をふまえながら古典を読み、内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。〔A149〕 【主体的に学習に取り組む態度】 和歌を比較し、相違点と類似点について考察し、整理しようとしている。	○	○	○	8
	☆漢詩～日本の詩 菅原道真「梅花」 夏目漱石「題目画」 ●日本漢詩が、文学史の中に占める意義について考察する。	①漢詩の構成について理解する。 ②各詩における対句表現を抜き出し、その表現効果を考察する。					【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔124〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。〔A149〕 【主体的に学習に取り組む態度】 漢詩の詩型・押韻・対句について進んで考察し、学習課題にそって本文を解釈しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査							○	○		1
	☆随筆 『枕草子』『御前にて人々と』 『方丈記』『ゆく河の流れ』 『徒然草』『花は盛りに』 ☆日記文学 『更級日記』『東路の道の果て』 ●随筆や日記文学を読み、筆者のものの見方、考え方を知る。	①「嵯峨山の月はいかなる人の見けるにか。」という表現の内容にみえる清少納言の思い。 ②『方丈記』の筆者のものの見方「無常」を理解する。 ③『徒然草』における「男女の情け」の「始め終はり」についておさえる。					【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔124〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において作品の成立した背景や他の作品との関係をふまえながら古典を読み、内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。〔A149〕 【主体的に学習に取り組む態度】 本文の内容を正しく読解し、筆者の考えを理解しようとしている。	○	○	○	6

[illegible]

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 公民 科目 公共

教科：公民 科目：公共 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～9組

教科担当者：（1組：玉川）（2組：池田）（3組：玉川）（4組：池田）（5組：池田）（6組：池田）
（7組：池田）（8組：池田）（9組：池田）

使用教科書：（帝国書院 高等学校 公共）

教科 公民 の目標：

- ・法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。
- ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。
- 主として法に関わる事項について、法、政治及び経済などの側面に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
- 【思考力、判断力、表現力等】求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
- 【学びに向かう力、人間性等】現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

科目 公共 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。	・幸福、正義、公正などに着目して、主として法に関わる事項について、法、政治及び経済などの側面に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	・現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に考え、解決しようとしている。
・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。		

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期 「青年期と社会参画」 宗教・思想・伝統文化と社会 【知識及び技能】 ・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。 ・伝統や文化、先人の取り組みや知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに、他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 「倫理的な見方・考え方」 【知識及び技能】 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・公共的な空間における人間としての在り方生き方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	1 私たちの生きる現代社会 2 青年期について考えよう 3 悩むことについて考えよう 4 ジェンダーについて考えよう 5 学ぶことについて考えよう 6 社会参画とキャリアについて考えよう 1 宗教について考えよう 2 日本の思想について考えよう 3 日本の伝統と文化について考えよう 1 よく生きる 古代ギリシャの思想 2 人とは何か 古代中国の思想 3 動機と結果 近代西洋の思想 4 公平と正義 現代の思想	【知識及び技能】 ・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。 ・伝統や文化、先人の取り組みや知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに、他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。 【知識及び技能】 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・公共的な空間における人間としての在り方生き方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	8
			○	○	○	4
1学期中間考査			○	○		1

1 学 期	「社会の基本原理と憲法の考え方」 【知識及び技能】 - 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作るうえで必要であることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 - 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 - 公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	1 近代立憲主義の原理 2 近代立憲主義の広がり 3 日本国憲法 4 平等に生きる権利 5 自由に生きる権利① 6 自由に生きる権利② 7 人間らしく生きる権利 8 広がる人権の考え方 9 人権保障の国際的な広がり	【知識及び技能】 - 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作るうえで必要であることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 - 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 - 公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	8
	「法の意義と司法参加」「民主社会と政治参加」 【知識及び技能】 - 政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれていくものであることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 - 自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 - 政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	1 社会規範と法 2 私たちの生活と法 3 契約の考え方 4 消費者の権利と責任 5 司法の役割 6 刑事裁判とその課題 1 政治と権力 2 議院内閣制と国会 3 権力分立と行政の役割 4 地方自治の役割 5 政党政治とメディア 6 選挙制度とその課題	【知識及び技能】 - 政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれていくものであることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 - 自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 - 政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	16
	1学期期末考査			○	○		1
2 学 期	「国際政治の動向と平和の追求」 【知識及び技能】 - 国家主権、領土（領海、領空を含む）、日本の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 - 自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 - 国家主権、領土（領海、領空を含む）、日本の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	1 国家と国際法 2 日本の主権と領土 3 平和主義と日本の防衛政策 4 これからの日本の安全保障 5 国際連合の役割と活動 6 紛争とテロリズム 7 核兵器と軍縮の課題 8 国際協力と日本の役割	【知識及び技能】 - 国家主権、領土（領海、領空を含む）、日本の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 - 自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 - 国家主権、領土（領海、領空を含む）、日本の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	8
	「市場経済のしくみ」 【知識及び技能】 - 市場経済の機能と限界、金融の働き、財政および租税の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていることおよびより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 - 自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 - 市場経済の機能と限界、金融の働き、財政および租税の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	1 経済とその考え方 2 市場のメリットと限界 3 企業の目的と役割 4 金融の役割 5 政府の役割と財政の機能 6 日本の財政の課題 7 経済の変動	【知識及び技能】 - 市場経済の機能と限界、金融の働き、財政および租税の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていることおよびより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 - 自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 - 市場経済の機能と限界、金融の働き、財政および租税の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	8
	2学期中間考査			○	○		1

「豊かな社会の実現」 【知識及び技能】 ・職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること、およびより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	- 産業構造の変化と職業選択 - 中小企業と農業 - 労働者の権利 - 雇用と労働に関する課題 - 社会保障の役割と意義 - 社会保障制度の課題	【知識及び技能】 ・職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること、およびより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	7
2学期期末考査			○	○		1
「国際経済の動向と格差の是正」 【知識及び技能】 ・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること、およびより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	- 国際経済のしくみ - 国際経済の枠組み - 地域経済統合 - グローバル化と自由貿易協定 - 国際経済の変化と課題 - 経済格差の是正	【知識及び技能】 ・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること、およびより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	6
学年末考査			○	○		1
※ 各学期の単元は、新型コロナウイルスの状況・予想等により順序等変更の可能性あり。		合計時数				70

高等学校 令和6年度（第2学年用） 教科「地理歴史」 科目「世界史探究」

教科：「地理歴史」 科目：「世界史探究」 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 3・6・7・8組

教科担当者：（3・6組：長野 貴大）（7・8組：住吉 貴之）（組：）（組：）

使用教科書：（山川出版社『詳説世界史』）

教科「地理歴史」の目標：

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目「世界史探究」の目標：

【A】 知識及び技能	【B】 思考力、判断力、表現力等	【C】 学びに向かう力、人間性等
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 文明の成立と古代文明の特質 【A】資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 【B】文明の形成に関わる諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察する。 【C】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求する。	【指導事項】 人類の進化と文明の成立 【教 材】 「地球カレンダー」 【端末活用】 端末、資料	【A】資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。 【B】文明の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察し、問を表現している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.16	36	21	頁
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 【A】東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解する。 【B】東アジアと中央ユーラシア諸地域相互の関わりなどに関連して主題を設定し、考察する。 【C】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求する。	【指導事項】 中国後漢までの東アジア 【教 材】 「塩鉄論」など 【端末活用】 端末、資料	【A】秦・漢と遊牧民族の動向をもとに、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。 【B】東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し、表現している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.37	53	17	頁
	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 【A】南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解している。 【B】南アジアにおける宗教や文化の特色などについて考察する。 【C】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求する。	【指導事項】 仏教及びヒンドゥー教の成立 【教 材】 「インドの1丁急成長とカースト制度」 【端末活用】 端末、資料	【A】仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国を形成したことを理解している。 【B】南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景やその原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、当該地域における宗教や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.54	62	9	頁
	定期考査			○	○		1
	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 【A】西アジアと地中海周辺の諸国家の歴史的特質を理解する。 【B】西アジアと地中海周辺の特色などについて考察する。 【C】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求する。	【指導事項】 ギリシアとローマ、地中海世界の形成 【教 材】 ペルシア戦争動画 ケクロ著作 【端末活用】 端末、資料	【A】西アジアと地中海周辺の諸国家の歴史的特質を理解している。 【B】西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景やその原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、当該地域の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.63	84	22	頁
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 【A】中央ユーラシア世界の形成と中国における分裂と融合、それによる遊牧民族とオアシス民の関係性について理解する。 【B】ソグド人の東西交渉において果たした役割を考察する。 【C】多様な人々によって構成されていた唐代の社会を基に現代での多様性を主体的に追求する。	【指導事項】 ユーラシア世界の東西交流と中華文明の融合・発展 【教 材】 旧唐書、古代書簡 【端末活用】 端末、資料	【A】中華世界が遊牧民族などの侵入によって分裂し、新たな胡漢融合世界ができたことを理解している。 【B】ソグド人がユーラシア世界において果たした役割について多面的・多角的に考察している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.37	53	17	頁
	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 【A】キリスト教とイスラームの歴史的特質を理解する。 【B】キリスト教とイスラームの形成する文化の特色などについて考察する。 【C】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求する。	【指導事項】 キリスト教とイスラームの成立 【教 材】 「旧約聖書」など 【端末活用】 端末、資料	【A】キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などをもとに、両宗教の歴史的特質を理解している。 【B】両宗教の歴史に関わる諸事象の背景やその原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、両宗教の形成する文化の特色等を多面的・多角的に考察し、表現している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.102-116	15		頁
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 【A】ヨーロッパの封建社会とその展開をとおして、海城と内陸にわたる諸地域の交流の広がりについて理解する。 【B】諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景やその原因、結果や影響などについて考察する。 【C】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求する。	【指導事項】 封建制とカトリック 【教 材】 「フランドル時禱書」 中国封建制度資料 【端末活用】 端末、資料	【A】ヨーロッパの封建社会とその展開をとおして、海城と内陸にわたる諸地域の交流の広がりについて理解する。 【B】諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景やその原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、当該地域が歴史に果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.117-136, 20 頁	○ ○ ○ 4
	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 【A】ヨーロッパの封建社会とその展開をとおして、海城と内陸にわたる諸地域の交流の広がりについて理解する。 【B】諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景やその原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、当該地域が歴史に果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【C】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	【指導事項】 封建制とカトリック 【教 材】 「フランドル時禱書」 中国封建制度資料 【端末活用】 端末、資料	【A】ヨーロッパの封建社会とその展開をとおして、海城と内陸にわたる諸地域の交流の広がりについて理解する。 【B】諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景やその原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、当該地域が歴史に果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.137-149, 13 頁	○ ○ ○ 4
	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 【A】宋の社会とモンゴル帝国の拡大、海城と内陸にわたる諸地域の交流の広がりについて理解する。 【B】海城と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景やその原因、結果や影響などについて考察する。 【C】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求する。	【指導事項】 宋代の経済と社会、モンゴル帝国 【教 材】 「清明上河図」 モンゴル及び騎馬民族に関する動画 【端末活用】 端末、資料	【A】宋の社会とモンゴル帝国の拡大などをとおして、海城と内陸にわたる諸地域の交流の広がりについて理解する。 【B】諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景やその原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、当該地域が歴史に果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.150-161, 12 頁	○ ○ ○ 5
	定期考査			○ ○	1
	第9章 大交易・大交流の時代 【A】諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解する。 【B】諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景やその原因、結果や影響などについて考察する。 【C】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求する。	【指導事項】 大航海時代、欧州諸国の世界進出 【教 材】 鄭曉「今言」 ラス＝カサス 著作 モンテーニュ 著作 【端末活用】 端末、資料	【A】アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向スペインとポルトガルの活動などを基に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。 【B】諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景やその原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、当該地域が歴史に果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.162-175, 14 頁	○ ○ ○ 4
	第10章 アジアの諸帝国の繁栄 【A】西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向とアジア諸地域の特質を理解する。 【B】アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景やその原因、結果や影響などについて及び、当該地域が歴史に果たした役割などについて考察する。 【C】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求する。	【指導事項】 アジア諸帝国、日本や朝鮮の動向 【教 材】 日本銀に関する資料 タージマハル廟・シク教寺院画像 【端末活用】 端末、資料	【A】西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向を基に、アジア諸地域の特質を構造的に理解している。 【B】アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景やその原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、当該地域が歴史に果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.176-201, 26 頁	○ ○ ○ 4
	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 【A】宗教改革、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想、主権国家体制の形成などについて理解する。 【B】宗教改革の意義、大西洋沿岸諸地域の経済的動向の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連について考察する。 【C】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求する。	【指導事項】 宗教改革、大西洋三角貿易、科学革命等 【教 材】 マックス＝ウェーバー 著作、「九十五カ条の論議」など 【端末活用】 端末、資料	【A】宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想などを基に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。 【B】宗教改革の意義、大西洋沿岸諸地域の経済的動向の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連などを、多面的・多角的に考察し、表現している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.202-219, 18 頁	○ ○ ○ 5
	定期考査			○ ○	1
3 学 期	第12章 産業革命と環大西洋革命 【A】国民国家と近代民主主義社会の形成について理解する。 【B】産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの発展、南北アメリカ大陸の変容などについて考察する。 【C】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求する。	【指導事項】 産業革命、環大西洋革命 【教 材】 産業革命に関する動画 エンゲルス 著作 ダヴィッド 作品 【端末活用】 端末、資料	【A】産業革命と環大西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 【B】産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの発展、南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、理解している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.220-241, 22 頁	○ ○ ○ 4
	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 【A】世界市場の形成とアジア諸国の変容について理解する。 【B】労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などについて考察する。 【C】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求する。	【指導事項】 自由貿易体制、世界市場の形成 【教 材】 チャーティスト請願、アイルランド人口資料 【端末活用】 端末、資料	【A】国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解している。 【B】諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.242-257, 16 頁	○ ○ ○ 4
	第14章 アジア諸地域の動向 【A】世界分割の進展とナショナリズムの高まりを理解する。 【B】世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などについて考察する。 【C】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求する。	【指導事項】 世界分割の進展、ナショナリズムの高揚 【教 材】 東京日日新聞、ネルー 著作 【端末活用】 端末、資料	【A】第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変容などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。 【B】諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【C】諸地域の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとする。	教科書 pp.258-277, 20 頁	○ ○ ○ 5
	定期考査			○ ○	1
					合計
					70

科目 「世界史探究」

の評価:

【A】 知識及び技能	【B】 思考力、判断力、表現力等	【C】 学びに向かう力、人間性等
定期考査及び単元ごとの小テスト、探究活動における史料及び資料の活用や読み解きの状況について、「極めて高い段階にある」「高い段階にある」「もう一歩努力を要する」の3段階で評価する。	定期考査における思考力を問う問題や初見問題の解法及び協働活動における発想力や発表活動における表現力等を総合し、「極めて高い段階にある」「高い段階にある」「もう一歩努力を要する」の3段階で評価する。	単元前の予習を必須とし、探究活動開始前に実施する単元小テストや探究活動における協働での積極性や関与の深さ等を評価し、「極めて高い段階にある」「高い段階にある」「もう一歩努力を要する」の3段階で評価する。

高等学校 令和6年度(2学年用) 教科 地理歴史 科目 日本史探究
教科: 地理歴史 科目: 日本史探究 単位数: 2 単位
対象学年組: 第 2 学年 3組～ 9組
教科担当者: (3組・4組: 松崎 (5組: 野原 (8組・9組: 松崎 (組:) (組:) (組:)
使用教科書: (山川出版社『日本史探究 詳説 日本史』)

教科 地理歴史 目標: 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民とし主な自覚と資質を養う。

- 【知識及び技能】社会的事象等に関する理解などを図るための知識と社会的事象等について調べまとめる技能を養う。
【思考力、判断力、表現力等】社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力や、考察したことや構想したことを説明する力、それらを基に議論する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】主体的に学習に取り組む態度と、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚を養う。

科目 日本史探究 目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
日本文化のあけぼの 【知識及び技能】 旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、先史社会の特色を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 先史・古代の日本と東アジアに関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組む、課題を追究できる。	人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。	【知識・技能】 日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。 【思考・判断・表現】 黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	4
古墳とヤマト政権 【知識及び技能】 国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、先史から古代の政治・社会や文化の特色を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 中国大陸や朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 律令国家の形成と古代文化の展開の内容に対して、見通しをもって学習に取り組むことができる。	地域的首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。	【知識・技能】 国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じて、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	5
1学期 定期考査			○	○		1

	律令国家の形成 【知識及び技能】 律令国家とどのような国家だったのかわかるか。などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取ることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 日本が中国にならった律令にもとづく国づくりを、急いで進めたのはなぜだろうか。などの課題について、中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して考察し、その結果を表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 律令国家の形成と古代文化の展開の内容に対して、見通しをもって学習に取り組むことができる。	律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。	【知識・技能】 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。 【思考・判断・表現】 天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。	○	○	○	7
	貴族政治の展開 【知識及び技能】 貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 摂関政治と貴族文化の内容に対して、見通しをもって学習に取り組むことができる。	藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。	【知識・技能】 藤原家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 【思考・判断・表現】 奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
2 学 期	院政と武士の躍進 【知識及び技能】 院政の特色や在園公領制の成立について、諸資料から適切かつ効果的に読み取ることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 権力の主体の変化などに着目して、朝廷政治や土地支配のしくみがどのように変容していったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究することができる。	院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。	【知識・技能】 貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 【思考・判断・表現】 武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。				14
	鎌倉政権の成立 【知識及び技能】 諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出すことができる。	鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。	【知識・技能】 諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。 【思考・判断・表現】 幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。				14
3 学 期	武家社会の成長 【知識及び技能】 鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを見出すことができる。	南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。	【知識・技能】 鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。 【思考・判断・表現】 南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを見出そうとしている。				16
							合計 70

年間授業計画 様式例

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅱ

教 科： 芸術 科 目： 音楽Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 2 組～ 9 組

教科担当者：(2組～9組 木谷)

使用教科書：(MOUSA 2・(補助教材) MUSIC NOTE)

教科 芸術 の目標:

【知識及び技能】芸術の各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術の良さや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり、芸術を愛好する心構えを育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

[illegible]

高等学校 令和 6 年度（2 学年用） 教科		芸術	科目	書道Ⅱ
教 科： 芸術	科 目： 書道Ⅱ	単位数：	2	単位
対象学年組：第 2 学年 4 組～ 8 組				
教科担当者：（4. 5 組：佐藤） （7 組：佐藤） （8 組：佐藤）				
使用教科書：（ 光村図書『書Ⅱ』 ）				
教科 芸術		の目標： 芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中での芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。		

科目 書道Ⅱ

の目標： 書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			漢	仮	漢					
1 学 期	漢字の書（篆書、隸書、草書） 【知識及び技能】 ・漢字の書を構成するさまざまな要素について理解できるようにする。 ・古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解できるようにする。 ・古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けるようにする。 ・変化や調和等による全体の構成を生かした表現の技能を身に付けるようにする。 ・日本及び中国の文字と書の伝統と文化について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫できるようにする。 ・感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組む態度を養う。	・書道1での学習内容確認 ・書体の成立過程と歴史的背景 ・書体の特徴と用筆 ・古典を生かした創作（集字、做書） ・協働活動により理解を深める（臨書、創作） ・ワークシートやTeamsを使った学習内容の確認及びフィードバック ・グループワーク（共同制作、発表等）				【知識・技能】 ・「書道1」での既習内容の理解の上で芸術科書道での学習の目的を理解している。 ・漢字の書を構成するさまざまな要素について理解している。 ・古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて歴史的背景と合わせて理解している。 ・古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 ・変化や調和等による全体の構成を生かした表現の技能を身に付けている。 ・日本及び中国の文字と書の伝統と文化について理解している。 【思考・判断・表現】 ・表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 ・感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・今後の学習への関心・意欲を持つとともに主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・協働活動を通じて積極的に自己の役割を見出すとともに他者から学ぼうとしている。				22
	漢字の書（行書、楷書） ※指導目標：1学期の漢字の書と同様	・書体、書風の特徴の違いについて ・篆書、隸書の字形と基本用筆 ・同じ書体による風趣の違いについて ・古典を生かした創作（集字、做書） ・ワークシートやTeamsを使った学習内容の確認及びフィードバック ・五書体について理解し臨書または創作に生かす（コンクール出品作品制作） 生活の中における文字の活用				【知識・技能】 ・漢字の書を構成するさまざまな要素について理解している。 ・古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて歴史的背景と合わせて理解している。 ・古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 ・変化や調和等による全体の構成を生かした表現の技能を身に付けている。 ・日本及び中国の文字と書の伝統と文化について理解している。 【思考・判断・表現】 ・表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 ・感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・今後の学習への関心・意欲を持つとともに主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。				24
2 学 期	仮名の書 【知識及び技能】 ・仮名の書を構成する様々な要素について理解できるようにする。 ・古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解できるようにする。 ・古典に基づく効果的な表現を身に付けるようにする。 ・墨継ぎや散らし書き等による全体の構成についての技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫できるようにする。 ・感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組む態度を養う。	・継色紙 ・升色紙 ・寸松庵色紙 ・古典の書風や表現の違い ・変体仮名とその効果 ・散らし書きの技法 ・古典を生かした創作 ・ワークシートやTeamsを使った学習内容の確認及びフィードバック ・グループワーク（共同制作、発表等）				【知識・技能】 ・仮名の書を構成する様々な要素について理解している。 ・古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・古典に基づく効果的な表現を身に付けている。 ・墨継ぎや散らし書き等による全体の構成についての技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 ・感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・協働活動を通じて積極的に自己の役割を見出すとともに他者から学ぼうとしている。				6

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 数学

科目 数学B

教科： 数学

科目： 数学B

単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 1組、2組（理）、4組（理）

教科担当者：（1組：中村 ）（2組：石井 ）（4組：石井 ）

使用教科書：（ 啓林館 深進数学B ）

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】 各単元における基本的な概念や法則等を理解し、数学的に表現・処理する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学的な手法を利用して事象を論理的に考察する力を身に付け、数理的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表す力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学を活用しようとする態度、粘り強く考え判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って、評価・改善したりしようとする態度を養う。

科目 数学B	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数値化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列 【知識及び技能】 数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 数列のいろいろな条件・事象を、学習した知識・技能を用いて、数学的に考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	1 数列とその項 2 等差数列 3 等比数列 (数学Ⅱ：指数の拡張及び指数関数を補足) 4 積の法則・指導事項 探求1 等差数列の和の最大・最小 節末問題 章末問題 ・ワークシートの活用 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・数列の一般項の意味を理解している。 ・等差数列・等比数列の一般項の求め方を理解している。 ・等差数列・等比数列の和の求め方を理解している。 ・簡単な数列や等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・いろいろな条件から等差数列・等比数列の一般項や和を求める方法を考察することができる。 ・いろいろな事象を等差数列・等比数列を利用して数学的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・等差数列・等比数列をつくり、その和を求めることに関心をもつ。 ・等差数列・等比数列の仕組みに関心を持ち、それらを一般項や和の考察に活用しようとする。	○	○	○	11
	第2節 いろいろな数列 【知識及び技能】 和の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 数列のいろいろな条件・事象を、学習した知識・技能を用いて、数学的に考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	1 和の記号Σ 2 累乗の和とΣの性質 節末問題 章末問題 ・ワークシート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・記号Σの意味を理解している。 ・いろいろな数列について、その規則性を見つけ、具体的な問題に活用する方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ・数列の和において、記号Σを利用して考察することができる。 ・数列の和を記号Σを利用して表すことができる。 ・いろいろな数列の規則を見つけ、一般項やその和を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数列の和において、記号Σを活用しようとする。 ・いろいろな数列の規則性に関心を持ち、それを一般項や和を求める考察に活用しようとする。	○	○	○	6
	定期考查			○	○		1
	第2節 いろいろな数列 【知識及び技能】 和の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 数列のいろいろな条件・事象を、学習した知識・技能を用いて、数学的に考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	3 階差数列 4 数列の和と一般項 5 いろいろな数列の和 節末問題 章末問題 ・ワークシート ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・記号Σの意味を理解している。 ・いろいろな数列について、その規則性を見つけ、具体的な問題に活用する方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ・数列の和において、記号Σを利用して考察することができる。 ・数列の和を記号Σを利用して表すことができる。 ・いろいろな数列の規則を見つけ、一般項やその和を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数列の和において、記号Σを活用しようとする。 ・いろいろな数列の規則性に関心を持ち、それを一般項や和を求める考察に活用しようとする。	○	○	○	6

第3節 漸化式と数学的帰納法 【知識及び技能】 数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 数列のいろいろな条件・事象を、学習した知識・技能を用いて、数学的に考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	1 漸化式 2 数学的帰納法 探究2 漸化式の有用性 探究3 漸化式と一般項 発展 隣接3項間漸化式 節末問題 章末問題 いろいろな漸化式 漸化式と確率 ・ワークシートの活用 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・漸化式の意味や仕組みを理解している。 ・漸化式から一般項を求める方法を理解している。 ・数学的帰納法の仕組みを理解している。 ・数学的帰納法を用いた証明を利用して、等式・不等式を証明できることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・様々な漸化式を適切に変形することで、その数列の一般項を求める方法を考えることができる。 ・事象を漸化式に帰着させて解決することを考察できる。 ・自然数に関する等式や不等式などの証明で、数学的帰納法を適用することができる。 ・数列の一般項を推定し、それを数学的帰納法を用いて証明することを考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・漸化式から一般項を導くことや、数学的帰納法を用いた証明に関心をもつ。 ・漸化式から一般項を導いたり、漸化式や数学的帰納法を事象の考察に活用しようとする。	○	○	○	14
定期考査			○	○		1
第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 【知識及び技能】 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることができるようにする。また、分布の特徴を把握できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 統計的な手法で、様々な条件・事象を、数学的に考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 統計的な手法を用いて、様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値 3 確率変数の分散・標準偏差 4 確率変数の和と期待値 5 独立な事象と独立な確率変数 6 二項分布 節末問題 章末問題 ・ワークシートの活用 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・確率分布や二項分布における、その期待値、分散、標準偏差などの意味を理解している。 ・確率分布や二項分布における期待値、分散、標準偏差などの求め方を理解している。 ・確率分布や二項分布について、期待値、分散、標準偏差などを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・確率分布や二項分布について、期待値、分散、標準偏差などを考察することができる。 ・確率分布や二項分布について、期待値、分散、標準偏差などを用いて、その傾向を的確に考察することができる。 ・確率分布や二項分布について、その傾向を期待値、分散、標準偏差などを用いて適切に表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・確率分布や二項分布について、期待値、分散、標準偏差などを用いて分布の傾向を把握しようとする。 ・確率分布や二項分布について、期待値、分散、標準偏差などを事象の考察に活用しようとする。	○	○	○	13
第2節 正規分布 【知識及び技能】 連続型確率変数について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 統計的な手法で、様々な条件・事象を、数学的に考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 統計的な手法を用いて、様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	1 連続的な確率変数 節末問題 章末問題 ・ワークシートの活用 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・連続的な確率分布や確率密度関数の意味を理解している。 ・連続密度関数から確率を求めることができる。 ・正規分布について、その意味を理解している。 ・正規分布について、その分布の様子を理解している。 ・標準的な分布が正規分布を利用して考察できることを理解している。 ・正規分布表を利用して確率の計算ができることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・連続的な確率分布や確率密度関数について、その表されたグラフと確率を関連づけてみるができる。 ・正規分布を用いた分布の見方を身に付けている。 ・標準的な分布を正規分布を用いて考察することができる。 ・確率の事象において、正規分布を用いて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・連続的な確率分布や、それを表す確率密度関数に関心をもつ。 ・連続的な確率分布や、それを表す確率密度関数を事象の考察に活用しようとする。 ・正規分布が標準的な分布の考察に活用できることに関心を示す。 ・正規分布を標準的な分布の考察に活用しようとする。	○	○	○	4

2 学 期	定期考査			○	○		1
	第2節 正規分布 【知識及び技能】 連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】 統計的な手法で、様々な条件・事象を、数学的に考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 統計的な手法を用いて、様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	2 正規分布 探究4 偏差値 節末問題 ・ワークシートの活用 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・連続的な確率分布や確率密度関数の意味を理解している。 ・連続密度関数から確率を求めることができる。 ・正規分布について、その意味を理解している。 ・正規分布について、その分布の様子を理解している。 ・標準的な分布が正規分布を利用して考察できることを理解している。 ・正規分布表を利用して確率の計算ができることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・連続的な確率分布や確率密度関数について、その表されたグラフと確率を関連づけてみることができる。 ・正規分布を用いた分布の見方を身に付けている。 ・標準的な分布を正規分布を用いて考察することができる。 ・確率の事象において、正規分布を用いて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・連続的な確率分布や、それを表す確率密度関数に関心をもつ。 ・連続的な確率分布や、それを表す確率密度関数を事象の考察に活用しようとする。 ・正規分布が標準的な分布の考察に活用できることに関心を示す。 ・正規分布を標準的な分布の考察に活用しようとする。	○	○	○	9
	第3節 区間推定と仮説検定 【知識及び技能】 母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】 統計的な手法で、様々な条件・事象を、数学的に考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 統計的な手法を用いて、様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	1 母集団と標本 2 推定 3 仮説検定 4 身の回りの問題への活用 探究5 両側検定と片側検定 節末問題 章末問題 ・ワークシートの活用 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・全数調査と標本調査の意味を理解している。 ・母平均や母比率の推定の意味を理解している。 ・母平均や母比率の推定の方法を理解している。 ・標本平均の期待値や標準偏差を求めたり、母平均や母比率の推定をしたりすることができる。 ・標本調査を利用して、標本平均の様子を調べ、母平均などを推定することができる。 ・仮説検定の考え方や手順を理解している。 【思考・判断・表現】 ・標本平均の期待値や標準偏差を考察したり、母平均や母比率の推定を考えたりすることができる。 ・標本調査を利用して、統計的な事象を考察することができる。 ・仮説検定を利用して、実験や調査の結果を批判的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・標本調査から推定できる事柄について関心をもつ。 ・標本調査や仮説検定を統計的な事象の考察に活用しようとする。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
3	第3章 数学と社会生活 第1節 数学と社会生活 【知識・技能】 社会生活などにおける問題を、数学を活用して解決する意義について理解する。また、日常の事象や社会の事象などを数学化し、数理的に問題を解決する方法を知る。 【思考力・判断力・表現力】 様々な条件・事象を、数学的に考察できるようにする。 【学びに向かう姿勢】 積極的に数学を活用する姿勢を培う。	1 関数によるデータの近似 2 大きな飼育場を作ろう 3 マンホールふたと定幅図形 4 暗号 発展 公開鍵暗号を支える数学 章末問題 ・ワークシートの活用 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・時系列データの特徴や、そこから傾向を読み取る方法を理解する。 ・回帰直線、回帰曲線の意味について理解し、それらを活用することの意味について理解する。 ・身のまわりの問題を数学を活用してモデル化することができる。 【思考・判断・表現】 ・与えられたデータについて、特徴や傾向を読み取る方法について考察することができる。 ・飼育場のフェンスを設置する問題を通して、客の要望をかなえるために数学を活用する方法について考察することができる。 ・飼育場のフェンスを設置する問題を通して、客の要望通りの飼育場を作ることとはできるかを批判的に考察することができる。 ・マンホールや暗号など、身のまわりのものに活用されている数学について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身のまわりの問題についてデータを収集し、その特徴や傾向を読み取ることで問題を解決しようとする。 ・身のまわりの問題を数的にモデル化し、解決しようとする。 ・身のまわりのものに隠れている数学的特徴について関心をもつ。	○	○	○	10

学 期	漸化式の考察 大学入試問題対策 【知識及び技能】 数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 数列のいろいろな条件・事象を、学習した知識・技能を用いて、数学的に考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	1 等差数列・等比数列の漸化式 2 二項間漸化式 3 三項間漸化式 4 いろいろな漸化式 (分枝型・対数型・連立型など) 5 漸化式の応用 ・ワークシートの活用 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・漸化式の意味や仕組みを理解している。 ・漸化式から一般項を求める方法や工夫を理解している。 【思考・判断・表現】 ・様々な漸化式を適切に変形することで、その数列の一般項を求める方法を考えることができる。 ・事象を漸化式に帰着させて解決することを考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・漸化式から一般項を導いたり、漸化式を事象の考察に活用しようとする。				
	定期考査			○	○	○	13
							1
							合計
							105

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅱ
教 科： 数学 科 目： 数学Ⅱ 単位数： 3 単位
対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 9 組
教科担当者： （1組：石井） （2組：石井、中村） （3組：清岡） （4組：中村、松本） （5組：木内） （6組：松本）
（7組：石井） （8組：中村） （9組：松本）
使用教科書： （ 進深数学Ⅱ ）

教科 数学 の目標：
【知識及び技能】 各単元における基本的な概念や法則等を理解し、数学的に表現・処理する技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表
【学びに向かう力、人間性等】 数学を活用しようとする態度、粘り強く考え判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って、評価・

科目 数学Ⅱ	の目標：
【知識及び技能】	式と証明・高次方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分と積分における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基本的な知識を身に付けている。また、事象を数学化して数学的に解釈し、数学的に表現・処理する技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	式と証明・高次方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分と積分における数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	数学Ⅱの各分野と既習分野との関連や今後の学習する各分野との関連について確認し、学習の意義や内容を理解する。授業の進め方やノートを取り方、課題の提出や評価の方法について確認する。 実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明できるようにする。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 (1) 多項式の乗法・除法、分数式の計算 3次の乗法公式、二項定理や因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができるようにする。また、多項式の除法や分数式の四則計算の方法について既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察して理解し、簡単な場合について計算をすることができるようにする。 (2) 式と証明 実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができるようにする。 (3) 高次方程式 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができるようにする。また、2次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解し、それらを活用できるようにする。さらに、因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができるようにする。 定期考査	オリエンテーション 第1章 式と証明・高次方程式 1. 多項式の乗法・除法と分数式 1 3次の乗法公式と因数分解 2 二項定理 探究1 バスカルの三角形の特徴 3 多項式の除法 4 分数式の計算 2. 式と証明 1 恒等式 2 等式の証明 3 不等式の証明 探究2 相加平均と相乗平均の利用 3. 高次方程式 1 複素数 2 2次方程式 3 2次方程式の解と係数の関係 探究3 2次方程式の実数解の符号 4 剰余の定理と因数定理 参考／組立除法 5 高次方程式 探究4 共役な複素数の利用	知識・技能 ・多項式の除法や分数式の計算、式の証明や数の複素数までの拡張、2次方程式、高次方程式などの基本的な概念、原理、用語、記号を理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・多項式の除法や分数式の計算、式の証明や数の複素数までの拡張、2次方程式、高次方程式などの概念、原理を順序立てて理解している。 思考・判断・表現 ・多項式の除法や分数式の計算、式の証明を通して様々な式の見方ができ、数の範囲を拡張することにより2次方程式や高次方程式を解くことを考察できる。 ・多項式の除法や分数式の計算、式の証明や2次方程式、高次方程式を処理することができる。 ・多項式の除法や分数式の計算、式の証明を通して式の見方を豊かにし、数の範囲を拡張することによって2次方程式の解を発展させることや高次方程式を解くことを数学的に考察することができる。 ・多項式の除法や分数式の計算、式の証明や2次方程式、高次方程式を目的に合わせて適切に処理することができる。 主体的に学習に取り組む態度 ・多項式の除法や分数式、式の証明や複素数解まで発展させた2次方程式及び高次方程式を解くことに興味をもつ。 ・多項式の除法や分数式、式の証明や複素数解まで発展させた2次方程式及び高次方程式を解くことに興味をもち、それらを問題の解決に活用しようとする。 ・【探究編】『挑戦』や『養おう』に取り組む、さらに進んだ学習に取り組もうとする。	○	○	○	22
				○	○		1

1 学期	座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それらを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察できるようにする。 (1) 点と直線 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができるようにする。また、座標平面上の直線や円を方程式で表すことができるようにする。 (2) 円と直線 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察できるようにする。また、2円の交点とその他1点を通る図形について考える。	第2章 図形と方程式 1. 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係 参考/点と直線の距離について 2. 円と直線 1 円の方程式 2 円と直線 探究5 直線が円によって切り取られる長さ 探究6 2つの円の共有点	知識・技能 ・点や直線、円に関する公式が導かれる過程を理解している。 ・座標や式を利用して、平面図形の性質や関係を調べる方法を理解している。 思考・判断・表現 ・座標や式を用いて平面図形の性質や関係を考察することができる。 ・座標や式を用いて平面図形の性質や関係を数学的に適切に考察することができる。 ・平面図形を座標や式を利用して表現することができる。また、点や直線、円に関する公式を用いて問題を解決することができる。 ・平面図形に関する問題を、座標や式を適切に用いて解決することができる。 主体的に学習に取り組む態度 ・基本的な平面図形の性質や関係、点や直線、円の位置関係を調べる際に座標を用いることの有用性を認識している。 ・平面図形の性質や関係、点や直線、円の位置関係を調べる際に、座標を活用しようとする。 ・【探究編】『挑戦』や『養おう』に取り組む、さらに進んだ学習に取り組もうとする。	○	○	○	17
定期考查				○	○		1

2 学 期	(3) 軌跡と領域 図形を与えられた条件を満たす点の集合として考えることを通して、軌跡や領域について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができるようにする。また、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができるようにする。さらに、領域の考え方は、証明や最大・最小問題の解決に有用であることを理解する。	3. 軌跡と領域 1 軌 跡 探究7 除外する点の存在を確認すること 2 不等式の表す領域 探究8 領域を利用した証明 参考／コンピュータの活用	知識・技能 ・方程式を満たす点の集合が座標平面上の軌跡を表していることを理解している。 ・軌跡を求める手順を理解している。 ・不等式や連立不等式が表す領域を図示する方法を理解している。 ・連立不等式が満たす領域内にある点に対して、1次式の最大値、最小値を求める方法を理解している。 ・領域を利用して命題を証明する方法を理解している。 思考・判断・表現 ・式を用いて、与えられた条件を満たす方程式を求め、それがどのような図形になるかを考察することができる。 ・動点に関する条件を満たす方程式を求め、それがどのような図形になるかを考察することができる。 →【探究7】逆についても調べなければならない場面について考察することができる。 ・不等式、連立不等式の表す領域を図示することができる。 →【探究8】領域を利用して命題を証明することができる。 ・領域における最大、最小を考察するなど、領域を線形計画法に活用する過程を考察することができる。 主体的に学習に取り組む態度 ・与えられた条件を満たす点全体の集合が作る図形に関心をもつ。 ・与えられた条件を満たす点全体の集合が作る図形に関心をもち、軌跡を調べようとする。 →【探究7】逆についても調べなければならない理由を考察しようとする。（『柔軟性を養おう』） ・いろいろな不等式の表す領域について調べようとする。 ・直線、円周、放物線で分けられる領域について、不等式を利用して調べようとする。 →【探究8】領域を利用して必要十分条件を求めようとする。（多様性を養おう』）	○	○	○	20
	三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、角の概念を一般角まで拡張して、三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができるようにする。 (1) 一般角の三角関数 角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方、扇形の面積の求め方などについて理解する。また、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察し、三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解できるようにする。さらに、三角関数を含む方程式・不等式の解が求めることができるようにする。	第3章 三角関数 1. 一般角の三角関数 1 一般角 2 弧度法 3 一般角の三角関数 4 三角関数の相互関係 5 三角関数のグラフ 6 三角関数を含む方程式・不等式	知識・技能 ・三角関数の性質やグラフの特徴を理解している。 ・三角関数の加法定理が導かれる過程を理解し、この定理から様々な公式が導かれることを理解している。 思考・判断・表現 ・三角関数を関数としてとらえ、方程式や不等式を考察することができる。 ・三角比の拡張を通して、三角関数を論理的に考えることができる。 ・三角関数の基本的なグラフを表すことができ、その性質を利用して基本的な問題を処理することができる。 ・三角関数の複雑なグラフを表すことができ、その性質を利用して、最大値・最小値を求めることができる。 主体的に学習に取り組む態度 ・角を一般角に拡張して、数学Ⅰで学習した三角比を発展させて考えることに興味をもつ。 ・角を一般角に拡張して、数学Ⅰで学習した三角比を発展させて考えようとする。 ・【探究編】『挑戦』や『養おう』に取り組む、さらに進んだ学習に取り組もうとする。	○	○		1
2 学 期	(2) 三角関数の加法定理 三角関数の相互関係などの基本的な性質や加法定理を理解し、三角関数の加法定理から2倍角の公式や三角関数の合成などの新たな性質を導き、理解できるようにする。	2. 三角関数の加法定理 1 三角関数の加法定理 探究9 点の回転移動 2 2倍角・半角の公式 探究10 加法定理の応用 3 三角関数の合成					

		参考[発展]／積を和、和を積に直す公式					
	2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉えて問題解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりできるようにする。その際、指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第4章 指数関数と対数関数 1. 指数と指数関数 1 指数の拡張 2 指数関数 探究11 累乗で表された数の大小	知識・技能 ・指数関数・対数関数の性質やグラフの特徴を理解している。 ・指数関数や対数関数が活用されている場面を理解している。				22
	(1) 指数と指数関数 指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすることができるようにする。また、指数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察し、指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解できるようにする。	2. 対数と対数関数 1 対数 2 対数関数 3 常用対数 探究12 常用対数の値	思考・判断・表現 ・指数関数、対数関数を関数としてとらえ、方程式や不等式などを考察することができる。 ・累乗の拡張を通して、指数関数、対数関数を論理的に考えることができる。 ・指数関数・対数関数のグラフを表すことができ、その性質を利用して基本的な問題を処理することができる。 ・指数関数・対数関数のグラフや性質を利用して、複雑な問題を処理することができる。	○	○	○	
	(2) 対数と対数関数 指数と対数を相互に関連付けて考察し、対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができるようにする。また、対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察し、対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解できるようにする。さらに、常用対数の理解を通して、対数の有用性を認識できるようにする。		主体的に学習に取り組む態度 ・数の累乗を拡張させて指数関数を、またその逆として対数関数を考えることに関心をもち、活用しようとする。 ・指数関数と対数関数の関係に関心をもち、活用しようとする。 ・【探究編】『挑戦』や『養おう』に取り組む、さらに進んだ学習に取り組もうとする。				
	定期考査			○	○		1
3学期	関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉えて問題解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりできるようにする。	第5章 微分と積分 1. 微分係数と導関数 1 平均変化率と微分係数 2 導関数 3 接線の方程式 2. 導関数の応用 1 関数の増減 探究13 3次関数の決定 参考／4次関数のグラフ 2 方程式・不等式への応用	知識・技能 ・微分係数や導関数及び不定積分、定積分の意味を理解している。 ・微分、積分のしかたを理解している。 ・微分と不定積分、定積分の関係を理解している。 ・定積分と面積の関係を理解し、面積の求め方の知識を身に付けている。				
	(1) 微分係数と導関数 微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができるようにする。	3. 積分 1 不定積分 2 定積分 探究14 放物線と接線で囲まれた部分の面積 探究15 絶対値を含む関数の定積分 参考／定積分の計算と面積	思考・判断・表現 ・微分係数や導関数についての数学的な見方を身に付けている。 ・微分係数や導関数を利用して、具体的な事象を考察することができる。 ・微分の逆演算として不定積分をとらえ、不定積分や定積分を考察することができる。 ・面積の意味を考え、定積分の利用について考察することができる。 ・微分や積分を記号を用いて表すことができ、公式を利用して処理することができる。 ・微分や積分を利用して、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	24
	(2) 導関数の応用 関数とその導関数との関係について考察し、導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解できるようにする。また、グラフの概形を利用して、方程式の解や不等式の証明など、微分の考えを事象の考察に活用することができるようにする。		主体的に学習に取り組む態度 ・関数の変化やその割合、さらに微分係数と導関数の導入について関心を示す。 ・関数の変化やその割合、さらに微分係数と導関数の導入について関心をもち、調べようとする。 ・微分の逆演算としての不定積分に関心を示し、面積を求める際に定積分を活用しようとする。 ・微分と定積分の関係に関心を示し、活用しようとする。 ・【探究編】『挑戦』や『養おう』に取り組む、さらに進んだ学習に取り組もうとする。				
	(3) 不定積分と定積分 不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができるようにする。また、微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察できるようにする。						
	定期考査			○	○		1
							合計
							110

高等学校 令和5年度（2学年用）教科 理科 科目 生物基礎

教科：理科 科目：生物基礎 単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1組～9組

教科担当者：（1組：加藤）（2組：加藤）（4組：加藤）

使用教科書：（啓林館 i版 生物基礎）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然現象に対する概念や原理・法則を理解する。探求のために必要な実験・観察の技能を獲得する。

【思考力、判断力、表現力等】科学的に探究する力と科学的な根拠を基に考え表現する力を身に着ける。

【学びに向かう力、人間性等】日常生活との関連や科学の有用性を認識する。課題に対して粘り強く挑戦する態度を身に着ける。

科目 生物基礎	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
生命現象に対する概念や原理を理解し、正しい知識を身に着ける。また、課題を探究するために必要な実験や観察の技能を獲得する。	生命現象について科学的に探究する力と科学的に探究する力と科学的な根拠をもとに考え表現する力を身に着ける。
	【学びに向かう力、人間性等】
	生物や生命現象について、日常生活との関連、それを学ぶことの有用性や命の尊さを認識する。また、課題に対して粘り強く挑戦する態度を身に着ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	生物の多様性と共通性 【知識及び技能】多様な生物の共通点がわかる。 【思考力、判断力、表現力等】原核生物と真核生物の共通点と相違点を考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】生命活動に必要なエネルギーと代謝について調べようとする。	・細胞の構造とはたらき、ATPの構造、呼吸及び光合成のしくみ ・実験・観察：顕微鏡およびマイクロメーターの使用、細胞の観察、酵素のはたらき ・教材：啓林館 i版 生物基礎 ICT機器（主に動画視聴）および一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】生物の共通点を挙げられる。 【思考力、判断力、表現力等】原核生物と真核生物の共通点と相違点を説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】生命活動に必要なエネルギーと代謝について自ら考えたり他社と意見を交換したりしようとする。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
	遺伝子の発現 【知識及び技能】転写と翻訳における塩基配列からアミノ酸配列への情報の流れがわかる。 【思考力、判断力、表現力等】細胞周期と染色体の変化の関係を考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】ゲノム医療など最新の話題にも関心を持つ。	・DNAの構造、DNAの分配（細胞分裂）、DNAの発現（転写・翻訳） ・実験：DNAの抽出、細胞分裂の観察 ・教材：啓林館 i版 生物基礎 ICT機器（主に動画視聴）および一人1台端末の活用、DNA模型 等	【知識及び技能】転写と翻訳における塩基配列からアミノ酸配列への情報の流れを説明できる。 【思考力、判断力、表現力等】細胞周期とDNA量の変化の関係をグラフで表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】ゲノム医療など遺伝子研究の有用性を自ら調べようとする。	○	○	○	19
	定期考査			○	○		1
2 学 期	神経系と内分泌系による調節 【知識及び技能】自律神経の構造や機能、内分泌腺とホルモン、その機能について正しく理解する。 【思考力、判断力、表現力等】血糖濃度のグラフを読みとることができる。 【学びに向かう力、人間性等】肝臓や腎臓の役割を知ろうとする。	・循環系、肝臓・腎臓の構造、自律神経系、内分泌系の構造とはたらき ・実験：血液凝固、腎臓の解剖 ・教材：啓林館 i版 生物基礎 ICT機器（主に動画視聴）および一人1台端末の活用、人体模型 等	【知識及び技能】自律神経の構造や機能、内分泌腺とホルモン、その機能について説明できる。 【思考力、判断力、表現力等】血糖濃度のグラフを読みとり、インスリンの効果を検討することができる。 【学びに向かう力、人間性等】肝臓や腎臓の役割を自ら調べようとする。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	免疫の働き 【知識及び技能】免疫にはたらく細胞について正しい知識を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】体液性免疫と細胞性免疫の過程を説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】予防接種や感染症との関連も含めて、免疫に関する話題に興味を持つ。	・免疫細胞の種類とはたらき、免疫機構、免疫の応用（予防接種のしくみなど） ・実験：白血球の観察 ・教材：啓林館 i版 生物基礎 ICT機器（主に動画視聴）および一人1台端末の活用等	【知識及び技能】免疫にはたらく細胞の名称と機能を説明できる。 【思考力、判断力、表現力等】体液性免疫と細胞性免疫の過程を図示しながら説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】予防接種や感染症等について自らの経験を基に考えようとする。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
3 学 期	殖生と遷移、生態系 【知識及び技能】気候とバイオームの関係について正しく理解する。 【思考力、判断力、表現力等】ある生態系を構成する生物について、その個体数の推移を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】環境問題などについて関心をもっている。	・森林の構造や遷移、世界および日本のバイオーム、生態系の構造 ・実験・観察：水生生物の観察、二枚貝の解剖 ・教材：啓林館 i版 生物基礎 ICT機器（主に動画視聴）および一人1台端末の活用等	【知識及び技能】気候とバイオームの関係を正しく答えられる。 【思考力、判断力、表現力等】ある生態系を構成する生物について、その個体数の推移を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】環境問題などについて自ら調べ、解決策を考えることができる。	○	○	○	23
	定期考査			○	○		1
							合計
							105

高等学校 令和6年度（2学年用）教科

理科

科目 物理基礎

教科：理科

科目：

物理基礎

単位数：

2

単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～

9 組

教科担当者：（ 1 組：小野 ）

（ 2・3・4・5・6・7・8・9 組：伊藤 ）

使用教科書：（ 物基708 「新編 物理基礎」 数研出版 ）

教科 理科

の目標：

「知識・技能」の評価…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができていますか。

「思考・判断・表現」の評価…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。

「主体的に学習に取り組む態度」…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。

科目 物理基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物体の運動とさまざまなエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けるとともに、物体の運動とさまざまなエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	物体の運動とさまざまなエネルギーに関する事物・現象の中に問題をみだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動とさまざまなエネルギーについて関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単元【運動の式と力】 - 物体の速さが移動距離を経過時間であったものであること、および、速さの単位を字ばせる。さらに、等速直線運動について$v-t$図と$a-t$図の特徴と、そのグラフがもたらす情報を理解させる。速度が向きをもった量であることを理解させる。平均の速度を求められるようにし、瞬間の速度はきわめて短い時間の平均の速度であることを$v-t$図を用いて理解させる。動いている物体から見た他の物体の速度が相対速度であることを示し、相対速度の式を理解させる。 - 直線運動における加速度の定義を理解させる。その際、運動が同じで、数直線の正の向きを取り方により加速度の正、負が決まられることを理解させる。等加速度直線運動における3つの式を理解させ、その具体的な運用に慣れさせる。 - 重力のみを受けた物体の運動（落体の運動）は、加速度の大きさがgの等加速度直線運動であることを気づかせる。自由落下や鉛直投射などの式が書けるようにし、その運用に慣れさせる。	- 指導事項 1 速度 2 加速度 3 落体の運動 - 教材 - 教科書・プリント・問題集 - ICT機器の活用 等	【知識及び技能】・物体の速さの式を理解している。・等速直線運動の式および$v-t$図、$a-t$図を理解している。・直線上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している。・加速度の定義や正負の意味を正しく理解している。・等加速度直線運動を表す3つの式がどのようにして得られたかを理解し、その式やグラフを正しく運用することができる。・自由落下や鉛直投射において、与えられた時刻における高さや速度を与える式の運用ができる。・自由落下、鉛直投射の性質を正しく理解し、これらの運動について考察することができる。 【思考力、判断力、表現力】・等速直線運動する物体の運動のようすについて説明できる。・動く観測者から見た場合の、観測者と同じ直線上を動く物体の運動のようすを説明できる。・加速度の意味・表し方、またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し、それをもとに物体の運動のようすを考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】・日常の運動から、速さ、時間、進む距離についての関係に興味をもち、速さと速度の違いや、相対速度の意味や使い方を理解しようとしている。・斜面上を降下する台車の運動を調べる実験に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	単元【運動の法則】 - 力は、物体の変形や運動状態の変化の原因となるものであり、向きと大きさをもったベクトル量であることを理解させる。地上にある質量m [kg] の物体は、その運動状態によらず、mg [N] の大きさの重力がはたらいていることを理解させる。 - 力がベクトル量であり、合成や分解ができることを理解させる。また、分解したときのx成分とy成分を求められるようにする。物体にいくつかの力がはたらくとき、これらの成分、x成分のつりあいの式が立てられるようにする。作用反作用の法則を理解し、つりあう2力の関係と作用反作用の2力の関係の違いが分かるようにする。 - 慣性の法則では、物体にはたらく力の合力が0であるとき、物体は等速直線運動（または静止）を続けることを理解させる。運動方程式では、物体は力を受けると加速すること、また、生じる加速度の大きさは質量に反比例し、力の大きさに比例することを、実験をもとにして理解させる。いくつかの具体例を用いて、運動方程式の立て方を習得させる。	- 指導事項 1 力とそのはたらき 2 力のつり合い 3 運動方程式 4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受ける力 - 教材 - 教科書・プリント・問題集 - ICT機器の活用 等	【知識・技能】・重力、垂直抗力、摩擦力、糸が引く力、弾性力について、理解している。・力がベクトル量であることを認識し、力の合成や分解ができる。・注目する物体にはたらく力が指摘でき、つりあいの式が立てられる。・作用・反作用の2力とつりあいの2力を区別して考えることができる。・物体が力を受けるとき（あるいは受けないとき）、運動状態はどのようになるか、逆に、物体の運動状態からどのような力がはたらいているかを指摘できる。 【思考・判断・表現】・重力の大きさは物体の質量と重力加速度の大きさとの積であり、運動の状態によらないことを説明できる。・作用・反作用の2力とつりあいの2力の違いを理解し、力のつりあいの式を考えた時、それぞれの2力の間の関係について説明できる。・慣性の法則、運動方程式が理解でき、問題解決にあたって式の運用が正しくできる。・運動方程式を用いて、物体の運動を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】・見ること、触ることができない「力」に対して、どのようにして力の存在がわかるのか、また力にはどのような種類があるのかについて考えようとしている。・力が合成・分解して表されることに興味をもち、「力がつりあう」とはどういうことを理解しようとしている。	○	○	○	12
2 学 期	定期考査			○	○		1
	単元【仕事と力学的エネルギー】 - 仕事の定義を正確に把握させる。特に、物体の移動方向に垂直にはたらく力は仕事をしないこと、移動の向きと力の向きが逆のときは仕事は負になること、および、正・負の仕事の意味について具体的に理解させる。$F-x$図の面積が仕事の大さを表すことを理解させる。 - 運動エネルギーの式$\frac{1}{2}mv^2$を導けるようにする。また、物体の運動エネルギーの変化が物体にされた仕事に等しいこと、および、この関係が導かれる過程を理解させる。 - 高い所にある物体は他の物体に対して仕事をすることから、重力による位置エネルギーをもっていることを理解させる。また、「物体の運動エネルギーの変化は、物体にされた仕事に等しい」ことを用いて重力による位置エネルギーがmgh [J] であることを理解させ、さらに基準水平面のとり方により、正の場合と負の場合があることを理解させる。 - 自由落下を例にとり、仕事と運動エネルギーの関係式を用いて、重力がけの仕事をするとき力学的エネルギー保存則が成り立っていることを理解させる。・概に、力学的エネルギー保存則は、物体にはたらく力が保存力だけのとき、あるいは保存力以外の力がはたらいていてもその力が物体に対して仕事をしないときに成り立つことを理解させる。	- 指導事項 1 仕事 2 運動エネルギー 3 位置エネルギー 4 力学的エネルギーの保存 - 教材 - 教科書・プリント・問題集 - ICT機器の活用 等	【知識・技能】・仕事、仕事率を計算して求めることができる。・物体に対して力がはたらいていても、仕事は0のときもあり、それがどのようなときであるかを理解している。・道具を使う場合と使わない場合の仕事を正確に計算して比較することになり、仕事の原理、を理解している。・運動エネルギーが$\frac{1}{2}mv^2$であることを理解している。・運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを理解している。・重力による位置エネルギーを計算することができる。・弾性力による位置エネルギーを計算することができる。・さまざまな物体の運動について、力学的エネルギー保存則を用いることができる。 【思考・判断・表現】・物体に対して力がはたらいていても、仕事は0のときもあり、それがどのようなときであるかを説明できる。・「仕事の原理」を理解し、道具を用いたときに必要な仕事はどうなるかを説明できる。・運動エネルギーがどのようなものかを理解し、説明できる。・力学的エネルギー保存則を用いて、物体の運動を定性的に考えることができる。・力学的エネルギー保存則を用いて、運動する物体の運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの変化のようすを説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】・日常で用いる「仕事」と物理で使う「仕事」の違いを理解し、物理でいうところの「仕事」について理解しようとしている。・力学的エネルギー保存則について興味関心をもち、理解しようとしている。・力学的エネルギー保存則の実験に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

3 学 期	【熱とエネルギー】 ・温度は、原子や分子の熱運動の激しさを示すものであり、熱運動が停止するときの温度を0とする絶対温度について理解させる。絶対温度 (K) とセルシウス温度 (°C) との関係を与え、温度差に関してはどちらの単位を用いても同じであることを理解させる。熱の移動がエネルギーの移動であることを説明し、熱がエネルギーの一形態であることを理解させる。 ・気体の内部エネルギーは、温度が高いほど、また分子の数が多ければ大きくなることを理解させる。また、物体の内部エネルギーを変化させる方法は2種類あり、それは熱することと仕事をすることであること (熱力学第一法則) を理解させる。	・指導事項 1 熱と物質の状態 2 熱と仕事 ・教材 ・教科書・プリント・問題集 ・ICT機器の活用 等	【知識・技能】・温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解されている。・熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。・仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解している。・熱伝導と熱伝導の条件について理解している。 【思考・判断・表現】・比熱の大きさから、物質の量まりやすさを推定できる。・温度と熱容量、比熱はどのような物理量か、自分の言葉で説明できる。・日常的な事象を、学習内容に照らし合わせて説明できる。・不可逆変化とはどのような変化かを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】・ものごまりやすさなど、熱にかかわる現象について興味関心をもち、理解しようとしている。・熱と仕事の関係について興味関心をもち、理解しようとしている。	○	○	○	8
	【波の性質】 波動とは、媒質の1点に起こった振動が、媒質中を少しずつ遅れて伝わるという現象であることを理解させる。はねつり下げたおもりの周期的な往復運動が単振動であり、単振動の周期による波が正弦波であることを理解させる。波を表す要素は振幅、周期、振動数、波長そして波の伝わる速さである。媒質の振動の方向に対して垂直な方向へ伝わる波形が横波、媒質の振動と同じ方向へ伝わる波形が縦波であることを理解させる。	・指導事項 1 波の性質 2 波の媒質の運動 ・教材 ・教科書・プリント・問題集 ・ICT機器の活用 等	【知識・技能】・波の発生原理や基本事項を理解している。・縦波と横波の違いを理解している。・縦波を横波の形で表現できている。 【思考・判断・表現】・波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。・波の基本事項について説明できる。・与えられた情報を正しく読み取り、問いに答えられている。 【主体的に学習に取り組む態度】・身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。	○	○	○	4
				○	○		1
	・波の重ねあわせの原理では、2つの波がある点に同時に達したときの変位は、2つの波が単独に達したときの変位の和であることを理解させる。・直線上で2波の、要素の等しい2つの波が逆向きに進むと、重なりあつた波がどちらへも進行しない定在波が生ずる。この定在波の媒質は、場所によつて振幅が異なることを理解させる。ウェーブタンクにパルスを送つたとき、自由端では位相が変わらず、山の入射波は山として反射されるが、固定端では位相が半波長ずれて、山は谷として反射されることを理解させる。	・指導事項 1 重ねあわせの原理 ・教材 ・教科書・プリント・問題集 ・ICT機器の活用 等	【知識・技能】・定在波が生じるしくみを理解している。・ウェーブマンシの実験・観察を通して、波の重ねあわせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解している。 【思考・判断・表現】・定在波を発生させる条件を正しく理解し、説明できる。・固定端と自由端での波の反射について、その違いを明確に説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】・波が衝突や反射するときどのようになるか、興味を持って、自分の考えを述べることができる。	○	○	○	6
	【音】 ・空気を伝わる音波は空気を媒質とする縦波である (真空中で音波は伝わらない)。空気中を伝わる音の速さは、温度により異なる。うなりの現象を実験上より観察させ、その理由を理解させる。 ・弦の振動は、弦の両端を節とする定在波であることを、観察をもとにして理解させる。気柱の固有振動は閉端を腹、閉端を節とする定在波であることを把握させる。振動体とその固有振動の周期と等しい周期で変化する外力を加えると、振動体は大きく振動するようになる (共振・共鳴) ことを理解させる。	・指導事項 1 音の性質 2 発音体の振動と共振・共鳴 ・教材 ・教科書・プリント・問題集 ・ICT機器の活用 等	【知識・技能】・日常生活での体験を通して、音の波としての性質を理解している。・うなりについては、音の干渉の知識を用いて定量的に扱うことができる。・弦や気柱の振動と音の高さの関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】・音の特徴づける3つの要素について説明できる。・うなりとはどのような現象であるかを説明できる。・倍音とはどのような振動数の音であるかを説明できる。・複数のデータから、正しく推定できる。また、温度と気柱の長さの関係についてこれまで学んだ知識より推定できる。 【主体的に学習に取り組む態度】・音の波の観察について、主体的に取り組んでいる。・弦楽器や管楽器について、どのようにして音の高さを変えているかについて、自分の考えを述べるができる。・音に関する問いかけについて、自分の言葉で表そうとしている。	○	○	○	9
				○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和6年度2学年用 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～9組

教科担当者：（1～9組：日向 円、金子 端、澤田 繁、松原 春佳）

使用教科書：（使用教科書：現代高等保健体育 補助教材：デジタル版ステップアップ高校スポーツ）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全の知識について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うようにする。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
各種の運動の特性に応じた技能等及び安全の知識について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	運動についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えるようにする。	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 器械運動 【知識及び技能】 自己の体の使い方知り、柔軟性と表現力の向上につながる技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】課題解決の方法を理解し、記録を向上させる取り組みを工夫できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばせるようにする。	・マット運動 ・個人の端末や学習記録表等の活用による活動のフィードバック	【知識・技能】 種目の特性を理解し、自己の体力を知り、競技力向上につながる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 課題解決の方法を理解し、記録を向上させる取り組みを工夫できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばすよう取り組める。	○	○	○	6
	B 球技 【知識及び技能】 種目の特性を理解し、自己の体力を知り、競技力向上につながる技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】課題解決の方法を理解し、記録を向上させる取り組みを工夫できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばせるようにする。	・ソフトボール、テニス ・個人の端末や学習記録表等の活用による活動のフィードバック	【知識・技能】 種目の特性を理解し、自己の体力を知り、競技力向上につながる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 課題解決の方法を理解し、記録を向上させる取り組みを工夫できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばすよう取り組める。	○	○	○	16
	C 水泳 【知識及び技能】 水泳の特性を理解し、自己の体力を知り、競技力向上につながる技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】課題解決の方法を理解し、記録を向上させる取り組みを工夫できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばせるようにする。	・水泳 ・個人の端末や学習記録表等の活用による活動のフィードバック	【知識・技能】 種目の特性を理解し、自己の体力を知り、競技力向上につながる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 課題解決の方法を理解し、記録を向上させる取り組みを工夫できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばすよう取り組める。	○	○	○	4

2 学 期	A 水泳 【知識及び技能】 水泳の特性を理解し、自己の体力を知り、競技力向上につながる技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】課題解決の方法を理解し、記録を向上させる取り組みを工夫できるようにする。 【学びに向かう力、人間性】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばせるようにする。	・水泳 ・個人の端末や学習記録表等の活用による活動のフィードバック	【知識・技能】 種目の特性を理解し、自己の体力を知り、競技力向上につながる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 課題解決の方法を理解し、記録を向上させる取り組みを工夫できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばすよう取り組める。	○	○	○	8
	B 球技 【知識及び技能】 種目の特性を理解し、自己の体力を知り、競技力向上につながる技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】課題解決の方法を理解し、記録を向上させる取り組みを工夫できるようにする。 【学びに向かう力、人間性】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばせるようにする。	・サッカー、バドミントン、テニス ・個人の端末や学習記録表等の活用による活動のフィードバック	【知識・技能】 種目の特性を理解し、自己の体力を知り、競技力向上につながる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 課題解決の方法を理解し、記録を向上させる取り組みを工夫できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばすよう取り組める。	○	○	○	10
	C ダンス 【知識及び技能】 ダンスの特性を理解し、自己の体力を知り、競技力向上につながる技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】課題解決の方法を理解し、記録を向上させる取り組みを工夫できるようにする。 【学びに向かう力、人間性】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばせるようにする。	・ダンス ・個人の端末や学習記録表等の活用による活動のフィードバック	【知識・技能】 種目の特性を理解し、自己の体力を知り、競技力向上につながる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 課題解決の方法を理解し、記録を向上させる取り組みを工夫できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばすよう取り組める。	○	○	○	10
3 学 期	A 陸上競技 【知識及び技能】 種目の特性を理解し、自己の体力を知り、競技力向上につながる技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】課題解決の方法を理解し、記録を向上させる取り組みを工夫できるようにする。 【学びに向かう力、人間性】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばせるようにする。	・持久走 ・個人の端末や学習記録表等の活用による活動のフィードバック	【知識・技能】 持久走としての特性を理解する。自己の体力を知り、走力の向上につながる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 自身の運動課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばすよう取り組める。	○	○	○	6
	B 球技 【知識及び技能】 種目の特性を理解し、自己の体力を知り、競技力向上につながる技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】課題解決の方法を理解し、記録を向上させる取り組みを工夫できるようにする。 【学びに向かう力、人間性】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばせるようにする。	・バレーボール ・個人の端末や学習記録表等の活用による活動のフィードバック	【知識・技能】 種目の技能を理解し、身につけているか。実技検査等を行い評価する。 【思考・判断・表現】 自身、及びグループの運動課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考判断しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康・安全に留意して、自己の記録を伸ばすよう取り組める。	○	○	○	10
合計時数							70

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健 単位数：1 単位

対象学年組：第2学年 1組～9組

教科担当者：（1・4・6組：澤田 繁、2・7・5組：金子 端、3・8・9組：日向 円）

使用教科書：現代高等保健体育

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全の知識について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うようにする。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	3単元 生涯を通じる健康 1. ライフステージと健康 2. 思春期と健康 3. 性意識と性行動の選択 4. 妊娠・出産と健康 5. 避妊法と人工妊娠中絶 6. 結婚生活と健康 7. 中高年期と健康 *課題別研究発表事前学習 【知識・技能】 生涯を通じる健康について、正しい知識を身につけ、理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力】 生涯を通じる健康に関して、自身や社会全体の解決方法を思考し、判断し、表現できるようにする。 【学びに向かう力、人間性】 生涯を通じる健康に関する自他や社会の課題を発見し、その解決に向けて主体的に活動できるようにする。	・グループワーク、調べ学習、空欄補充等 ・教科書、プリント ・個人端末の活用 等	【知識・技能】 生涯を通じる健康について、正しい知識を身につけ、理解している。 【思考・判断・表現】 生涯を通じる健康に関して、自身や社会全体の解決方法を思考し、判断し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯を通じる健康に関する自他や社会の課題を発見し、その解決に向けて主体的に活動している。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学期	課題別研究発表事前学習	・研究発表 ・パワーポイント ・記録用紙 ・個人端末を利用した動画やスライドの活用。	【知識・技能】 生涯を通じる健康について、正しい知識を身につけ、理解している。 【思考・判断・表現】 生涯を通じる健康に関して、自身や社会全体の解決方法を思考し、判断し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯を通じる健康に関する自他や社会の課題を発見し、その解決に向けて主体的に活動している。	○	○	○	14
3 学期	3単元 生涯を通じる健康 08. 働くことと健康 09. 労働災害と健康 10. 健康的な職業生活 4単元 健康を支える健康づくり 01. 大気汚染と健康 02. 水質汚濁、土壌汚染と健康 03. 環境と健康にかかわる対策 04. ごみの処理と上下水道整備 【知識・技能】 生涯を通じる健康・健康を支える健康づくりについて、正しい知識を身につけ、理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力】 生涯を通じる健康・健康を支える健康づくりに関して、自身や社会全体の解決方法を思考し、判断し、表現できるようにする。 【学びに向かう力、人間性】 生涯を通じる健康・健康を支える健康づくりに関する自他や社会の課題を発見し、その解決に向けて主体的に活動できるようにする。	・グループワーク、調べ学習、空欄補充等 ・教科書、プリント ・個人端末の活用 等	【知識・技能】 生涯を通じる健康・健康を支える健康づくりについて、正しい知識を身につけ、理解している。 【思考・判断・表現】 生涯を通じる健康・健康を支える健康づくりに関して、自身や社会全体の解決方法を思考し、判断し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯を通じる健康・健康を支える健康づくりに関する自他や社会の課題を発見し、その解決に向けて主体的に活動している。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
合計時数							35

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅡ

教科： 外国語 科目： 英語コミュニケーションⅡ 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 9 組

教科担当者： （ 1 組：大川 ） （ 2 組：大川 ） （ 3 組：武藤 ） （ 4 組：武藤 ） （ 5 組：山本 ） （ 6 組：鈴木 ）
（ 7 組：山本 ） （ 8 組：鈴木 ） （ 9 組：山本 ）

使用教科書： （ Power On Ⅱ ）

教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深め、実際のコミュニケーション（聞く、読む、話す、書く）の中で、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを英語で的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりする。
- 【主体的に学習に取り組む態度】 英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図る。

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深め、書き手や話し手の意図、概要、要点を把握する技能および情報や自分自身の考えを伝える技能を身に付ける。	日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要、要点、詳細、意図を把握し、考えをまとめる。それらを活用し、情報や要点、意図、自分自身の考えなどを適切に表現したり伝え合う。	書き手や話し手の意図、概要、要点、詳細を積極的に把握しようとし、情報や要点、意図、自分自身の考えなどを積極的に表現したり伝え合おうとする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 （ や ）	話 （ 発 ）	書					
単元 Lesson 1 Play me, I'm Yours 【知識及び技能】 助動詞＋動詞の原形、受け身、S＋V [be 動詞以外]＋Cを用いた文の形・意味・用法を理解している。日本や海外でのストリートピアノと人々・社会とのかかわりについて、助動詞＋動詞の原形、受け身、S＋V [be 動詞以外]＋Cなどの理解を基に、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、ストリートピアノがどのような経緯で設置されたかについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 日本や海外でのストリートピアノと人々・社会とのかかわりについて、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ストリートピアノがどのような経緯で設置されたかについて、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本や海外でのストリートピアノと人々・社会とのかかわりについて、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ストリートピアノがどのような経緯で設置されたかについて、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝えようとしている。	【題材内容】 ストリートピアノについてのテレビレポート 【言語材料】 助動詞＋動詞の原形、受け身、S＋V [be 動詞以外]＋C 【言語の働き】 説明する、報告する、紹介する、発表する						【知識及び技能】 助動詞＋動詞の原形、受け身、S＋V [be 動詞以外]＋Cを用いた文の形・意味・用法を理解している。ストリートピアノがどのような経緯で設置されたかについて、助動詞＋動詞の原形、受け身、S＋V [be 動詞以外]＋Cなどの多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えを理由や根拠とともに詳しく話して伝える技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ストリートピアノがどのような経緯で設置されたかについて紹介するために、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えを理由や根拠とともに詳しく話して伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ストリートピアノがどのような経緯で設置されたかについて紹介するために、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えを理由や根拠とともに詳しく話して伝えようとしている。				13

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 「や 」	話 「発 」					
1 学 期	単元 Lesson 2 Ethical Fashion 【知識及び技能】 S+V+O+C [形容詞]，S+V [使役] +O+C [原形不定詞]，S+V [知覚] +O+C [現在分詞，原形不定詞] を用いた文の形・意味・用法を理解している。ファストファッションの背後にある問題やエシカルファッションについて，S+V+O+C [形容詞]，S+V [使役] +O+C [原形不定詞]，S+V [知覚] +O+C [現在分詞，原形不定詞] などの理解を基に，必要な情報，話し手・書き手の意図，概要や要点，詳細を目的に応じて捉えたり，自分の好きなファッションブランドのエシカルな活動について，多様な語句や文を用いて，情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ファストファッションの背後にある問題やエシカルファッションについて，必要な情報，話し手・書き手の意図，概要や要点，詳細を捉えたり，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，自分の好きなファッションブランドのエシカルな活動について，情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ファストファッションの背後にある問題やエシカルファッションについて，必要な情報，話し手・書き手の意図，概要や要点，詳細を捉えたり，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，自分の好きなファッションブランドのエシカルな活動について，情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝えている。	【題材内容】 現代のファッション業界についてのニュース記事。ファストファッションの問題点やエシカルファッションについて考える。 【言語材料】 S+V+O+C [形容詞]，S+V [使役] +O+C [原形不定詞]，S+V [知覚] +O+C [現在分詞，原形不定詞] 【言語の働き】 説明する，理由を述べる，紹介する，発表する	○	○			【知識及び技能】] S+V+O+C [形容詞]，S+V [使役] +O+C [原形不定詞]，S+V [知覚] +O+C [現在分詞，原形不定詞] を用いた文の形・意味・用法を理解している。S+V+O+C [形容詞]，S+V [使役] +O+C [原形不定詞]，S+V [知覚] +O+C [現在分詞，原形不定詞] などの理解を基に，ファストファッションとエシカルファッションについて話される会話の内容を詳細に聞き取る技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 情報や自分の考えをまとめるために，ファストファッションとエシカルファッションに対する異なる立場からの考えについて話される会話から，必要な情報を聞き取り，話し手の意図，概要や要点，詳細を整理して把握している。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報や自分の考えをまとめるために，ファストファッションとエシカルファッションに対する異なる立場からの考えについて話される会話から，必要な情報を聞き取り，話し手の意図，概要や要点，詳細を整理して把握しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査							○	○		1
	単元 Lesson 3 One for All, All for One 【知識及び技能】 現在完了形，過去完了形，仮定法過去のif 節を用いた文の形・意味・用法を理解している。ラグビー選手のマイケル・リーチ選手について，現在完了形，過去完了形，仮定法過去のif 節などの理解を基に，必要な情報，話し手・書き手の意図，概要や要点，詳細を目的に応じて捉えたり，自分の好きなスポーツ選手や有名人について，多様な語句や文を用いて，情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ラグビー選手のマイケル・リーチ選手について，必要な情報，話し手・書き手の意図，概要や要点，詳細を捉えたり，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，自分の好きなスポーツ選手や有名人について，情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ラグビー選手のマイケル・リーチ選手について，必要な情報，話し手・書き手の意図，概要や要点，詳細を捉えたり，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，自分の好きなスポーツ選手や有名人について，情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝えようとしている。	【題材内容】 ラグビー選手のリーチ・マイケル選手へのインタビュー 【言語材料】 現在完了形，過去完了形，仮定法過去のif 節 【言語の働き】 質問する，説明する，紹介する，感謝する			○		【知識及び技能】 現在完了形，過去完了形，仮定法過去のif 節を用いた文の形・意味・用法を理解している。好きなスポーツ選手について，現在完了形，過去完了形，仮定法過去のif 節などの多様な語句や文を用いて，情報や自分の考えを整理し，インタビュー形式で詳しく話して伝え合うやり取りを続ける技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 友達の見解を知り，自分の考えをまとめるために，好きなスポーツ選手の経歴などについて，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，情報や自分の考えを整理し，インタビュー形式で詳しく話して伝え合うやり取りを続けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 友達の見解を知り，自分の考えをまとめるために，好きなスポーツ選手の経歴などについて，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，情報や自分の考えを整理し，インタビュー形式で詳しく話して伝え合うやり取りを続けようとしている。	○	○	○	13

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 【 や 】	話 【 発 】	書				
単元 Lesson4 Vending Machines 【知識及び技能】 関係代名詞（主格）、関係代名詞の非制限用法、関係代名詞（目的格）を用いた文の形・意味・用法を理解している。日本と海外の自動販売機について、関係代名詞（主格）、関係代名詞の非制限用法、関係代名詞（目的格）などの理解を基に、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、海外のユニークな自動販売機について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 日本と海外の自動販売機について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、海外のユニークな自動販売機について、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本と海外の自動販売機について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、海外のユニークな自動販売機について、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝えている。	【題材内容】 日本の自動販売機、海外の自動販売機についてのオンライン記事 【言語材料】 関係代名詞（主格）、関係代名詞の非制限用法、関係代名詞（目的格） 【言語の働き】 説明する、紹介する、意見を述べる、発表する、質問する					【知識及び技能】 関係代名詞（主格）、関係代名詞の非制限用法、関係代名詞（目的格）を用いた文の形・意味・用法を理解している。海外のユニークな自動販売機を紹介する発表用の原稿を、関係代名詞（主格）、関係代名詞の非制限用法、関係代名詞（目的格）などの多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えを理由や根拠とともに詳しく書いて伝える技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 海外のユニークな自動販売機を紹介するために、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、発表用の原稿を情報や自分の考えを理由や根拠とともに詳しく書いて伝えている。 ○ 【主体的に学習に取り組む態度】 海外のユニークな自動販売機を紹介するために、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、発表用の原稿を情報や自分の考えを理由や根拠とともに詳しく書いて伝えようとしている。	○	○	○	12
							○	○		1
Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue 【知識及び技能】 助動詞＋受け身、S+V+C [分詞]、S+V+O [if節]、It seems [appears] +that節を用いた文の形・意味・用法を理解している。 【技能】ブレイルノイエの開発の経緯や利点と可能性について、助動詞＋受け身、S+V+C [分詞]、S+V+O [if節]、It seems [appears] +that節を用いた文の形・意味・用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ブレイルノイエの開発の経緯や利点と可能性について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ブレイルノイエの利点と活用方法について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ブレイルノイエの開発の経緯や利点と可能性について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ブレイルノイエの利点と活用方法について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えている。	【題材内容】 ユニバーサルデザインのフォント、ブレイルノイエとその開発者の高橋鴻介氏へのインタビューについての雑誌記事 【言語材料】 助動詞＋受け身、S+V+C [分詞]、S+V+O [if節]、It seems [appears] +that節 【言語の働き】 質問する、説明する、例示する、提案する、発表する	○	○			【知識及び技能】 助動詞＋受け身、S+V+C [分詞]、S+V+O [if節]、It seems [appears] +that節を用いた文の形・意味・用法を理解している。助動詞＋受け身、S+V+C [分詞]、S+V+O [if節] などの理解を基に、ブレイルノイエの開発者の学生時代について話されるインタビューの内容を詳細に聞き取る技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 情報や自分の考えをまとめるために、ブレイルノイエの開発者の学生時代について話されるインタビューから、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握している。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報や自分の考えをまとめるために、ブレイルノイエの開発者の学生時代について話されるインタビューから、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握しようとしている。	○	○	○	14

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔や〕	話 〔発〕					
2 学 年	Lesson 6 New Banknotes 【知識及び技能】 It + is [was] + said + that 節、形式目的語itとthat 節、形式目的語itとto 不定詞、助動詞+have+過去分詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。新紙幣やキャッシュレス社会について、It + is [was] + said + that 節、形式目的語itとthat 節、形式目的語itとto 不定詞、助動詞+have+過去分詞などの多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え・意見を整理し、詳しく話して伝え合うやり取りを続ける技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 新紙幣とキャッシュレス社会について、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、キャッシュレス社会の長所・短所について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 新紙幣とキャッシュレス社会について、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、キャッシュレス社会の長所・短所について、情報や自分の考えなどを論	【題材内容】 2024年に新しく発行される紙幣にまつわる話やキャッシュレス化についてのオンライン記事 【言語材料】 It + is [was] + said + that 節、形式目的語itとthat 節、形式目的語itとto 不定詞、助動詞+have+過去分詞 【言語の働き】 説明する、意見を述べる、賛成する、反対する、理由を述べる、発表する、質問する					【知識及び技能】 It + is [was] + said + that 節、形式目的語itとthat 節、形式目的語itとto 不定詞、助動詞+have+過去分詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。新紙幣やキャッシュレス社会について、It + is [was] + said + that 節、形式目的語itとthat 節、形式目的語itとto 不定詞、助動詞+have+過去分詞などの多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え・意見を整理し、詳しく話して伝え合うやり取りを続ける技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 友達のをを踏まえて、自分の考えや意見をまとめるために、新紙幣やキャッシュレス社会に対する賛成・反対の両方の意見について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考え・意見を整理し、詳しく話して伝え合うやり取りを続けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 友達のをを踏まえて、自分の考えや意見をまとめるために、新紙幣やキャッシュレス社会に対する賛成・反対の両方の意見について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考え・意見を整理し、詳しく話して伝え合うやり取りを続けようとしている。	○	○	○	13
	定期考査							○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔や〕	話 〔発〕					
期	Lesson 7 Some Secrets about Colors 【知識及び技能】 関係代名詞（所有格）、同格を表す接続詞that、前置詞＋関係代名詞、関係副詞whereの非制限用法を用いた文の形・意味・用法を理解している。色の心理的効果について、関係代名詞（所有格）、同格を表す接続詞that、前置詞＋関係代名詞、関係副詞whereの非制限用法などの理解を基に、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、色の心理的効果を考慮した部屋の壁の色について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 色の心理的効果について、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、色の心理的効果を考慮した部屋の壁の色について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 色の心理的効果について、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、色の心理的効果を考慮した部屋の壁の色について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えている。	【題材内容】 色が私たちに与える影響や色のもつ心理的効果についての論説文 【言語材料】 関係代名詞（所有格）、同格を表す接続詞that、前置詞＋関係代名詞、関係副詞whereの非制限用法 【言語の働き】 説明する、提案する、理由を述べる、意見を述べる、質問する					【知識及び技能】 関係代名詞（所有格）、同格を表す接続詞that、前置詞＋関係代名詞、関係副詞whereの非制限用法を用いた文の形・意味・用法を理解している。色の心理的効果を考慮した部屋の壁の色についての発表用の原稿を、関係代名詞（所有格）、同格を表す接続詞that、前置詞＋関係代名詞、関係副詞whereの非制限用法などの多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えを整理し、理由や根拠とともに論理性に注意して詳しく書いて伝える技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを友達に提案するために、色の心理的効果を考慮した部屋の壁の色についての発表用の原稿を、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えを整理し、理由や根拠とともに論理性に注意して詳しく書いて伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の考えを友達に提案するために、色の心理的効果を考慮した部屋の壁の色についての発表用の原稿を、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えを整理し、理由や根拠とともに論理性に注意して詳しく書いて伝えようとしている。	○	○	○	14
	Lesson 8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem 【知識及び技能】 強調構文、強調の助動詞do、直前の文を先行詞とする関係代名詞which、to+have+過去分詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。納豆パウダーの開発の経緯と汚水を浄化するしくみや、発展途上国への影響について、強調構文、強調の助動詞do、直前の文を先行詞とする関係代名詞which、to+have+過去分詞などの理解を基に、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、納豆パウダーという製品の利点などについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 納豆パウダーの開発の経緯と汚水を浄化するしくみや、発展途上国への影響について、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、納豆パウダーという製品の利点などについて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 納豆パウダーの開発の経緯と汚水を浄化するしくみや、発展途上国への影響について、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、納豆パウダーという製品の利点などについて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えている。	【題材内容】 小田兼利博士が開発した納豆パウダーの誕生秘話と世界へ広がる様子についての論説文 【言語材料】 強調構文、強調の助動詞do、直前の文を先行詞とする関係代名詞which、to+have+過去分詞 【言語の働き】 説明する、紹介する、描写する、注意をひく、勧める					【知識及び技能】 強調構文、強調の助動詞do、直前の文を先行詞とする関係代名詞which、to+have+過去分詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。納豆パウダーという製品の利点などについて、強調構文、強調の助動詞do、直前の文を先行詞とする関係代名詞which、to+have+過去分詞などの多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えを整理し、理由や根拠とともに論理性に注意して、実例を挙げながら動画の形で詳しく話して伝える技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 納豆パウダーという製品を広めるために、製品の利点などについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えを整理し、理由や根拠、実例とともに論理性に注意して動画の形で詳しく話して伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 納豆パウダーという製品を広めるために、製品の利点などについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えを整理し、理由や根拠、実例とともに論理性に注意して動画の形で詳しく話して伝えようとしている。	○	○	○	13
								○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔や〕	話 〔発〕	書				
	Lesson 9 Flying after Her Dreams 【知識及び技能】 譲歩を表す副詞節, no matter how [where, when] (※要修正反映), 仮定法過去完了, 分詞構文 (過去分詞) を用いた文の形・意味・用法を理解している。黒人女性初のパイロットであるベシー・コールマンの経歴や人物像や夢について, 譲歩を表す副詞節, no matter how [where, when] (※要修正反映), 仮定法過去完了, 分詞構文 (過去分詞) などの理解を基に, 必要な情報, 話・文章の展開や話し手・書き手の意図, 概要や要点, 詳細を目的に応じて捉えたり, 1900年頃のアメリカにおける女性の専門職の就労について, 多様な語句や文を用いて, 情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 黒人女性初のパイロットであるベシー・コールマンの経歴や人物像や夢について, 必要な情報, 話・文章の展開や話し手・書き手の意図, 概要や要点, 詳細を捉えたり, 聞いたり読んだりしたことを活用しながら, 1900年頃のアメリカにおける女性の専門職の就労について, 情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 黒人女性初のパイロットであるベシー・コールマンの経歴や人物像や夢について, 必要な情報, 話・文章の展開や話し手・書き手の意図, 概要や要点, 詳細を捉えたり, 聞いたり読んだりしたことを活用しながら, 1900年頃のアメリカにおける女	【題材内容】 アメリカで黒人女性初のパイロットとなったベシー・コールマンの伝記 【言語材料】 譲歩を表す副詞節, no matter how [where, when] (※要修正反映), 仮定法過去完了, 分詞構文 (過去分詞) 【言語の働き】 質問する, 説明する, 理由を述べる					【知識及び技能】 譲歩を表す副詞節, no matter how [where, when], 仮定法過去完了, 分詞構文 (過去分詞) を用いた文の形・意味・用法を理解している。譲歩を表す副詞節, no matter how [where, when], ベシー・コールマンの視点から, 仮定法過去完了, 分詞構文 (過去分詞) などの多様な語句や文を用いて, 情報や自分の考えを整理し, インタビュー形式で詳しく話して伝え合うやり取りを続ける技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 友達の見解を知り, 自分の考えをまとめるために, ベシー・コールマンの視点から, 聞いたり読んだりしたことを活用しながら, 情報や自分の考えを整理し, インタビュー形式で詳しく話して伝え合うやり取りを続けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 友達の見解を知り, 自分の考えをまとめるために, ベシー・コールマンの視点から, 聞いたり読んだりしたことを活用しながら, 情報や自分の考えを整理し, インタビュー形式で詳しく話して伝え合うようにしている。				
					○			○	○	○	16

[illegible]

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 外国語 科目 論理・表現Ⅱ

教科：外国語 科目：論理・表現Ⅱ 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～9組

教科担当者：（1組：山本・武藤）（2組：鈴木・武藤）（3組：鈴木・山本）（4組：尾形・山本）（5組：武藤・鈴木）（6組：尾形・武藤）
（7組：大川・武藤）（8組：大川・尾形）（9組：武藤・尾形）

使用教科書：（be Logic and Expression II clear）

教科 外国語 目標：

- 【知識及び技能】英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深め、実際のコミュニケーション（聞く、読む、話す、書く）の中で、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを英語で的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりする。
- 【学びに向かう力、人間性等】英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図る。

科目 論理・表現Ⅱ 目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開、情報や考えなどを効果的に伝える表現について理解を深め、実際のコミュニケーションの中で、適切に活用できる技能を身に付ける。	日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを整理し、情報や要点、意図、自分自身の考えなどを適切に表現したり伝え合う。	論理の構成や展開、情報や考えなどを効果的に伝える表現について積極的に理解しようとし、情報や要点、意図、自分自身の考えなどを積極的に表現したり伝え合おうとする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	感	配 当 時 数
		聞	読	話 （ や ）	話 （ 発 ）	書					
単元 Lesson1 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、興味関心・部活動について表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 興味関心・部活動について表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身に付け、積極的に表現する。	・現在形、過去形、完了形、未来を表す表現 ・興味を持っていること、部活動について伝える	○		○		○	【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときにどのように役立つのかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。	○	○	○	2
単元 Lesson2 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英文で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、日常生活、流行していることについて表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日常生活、流行していることについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身に付け、積極的に表現する。	・不定詞（名詞用法）、動名詞、名詞節 ・日常生活、流行していること、関心のある事について伝える		○	○	○		【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときにどのように役立つのかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。	○	○	○	2
単元 Lesson3 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、学校生活の決まりや施設の使い方について表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 学校生活の決まりや施設の使い方について表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身に付け、積極的に表現する。	・助動詞、助動詞＋have＋過去分詞 ・学校生活の決まりや施設の使い方を説明する			○	○	○	【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときにどのように役立つのかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。	○	○	○	2
定期考査								○	○		1

1 学 期	単元 Lesson4 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、SNSとの付き合い方について表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 SNSとの付き合い方について表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけ、積極的に表現する。	・形容詞の限定用法と叙述用法、分詞の限定用法と叙述用法、感情を表す分詞形容詞 ・ソーシャルメディアの使い方、ソーシャルメディアに関すること、感想をコメントすることを通してSNSとの付き合い方について考える。	○	○	○	【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときにどのように役立つかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。	○	○	○	2
	単元 Lesson5 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、ボランティア活動への参加について表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ボランティア活動への参加について表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけ、積極的に表現する。	・名詞＋形容詞句・前置詞句、名詞＋分詞句、名詞＋不定詞句 ・ボランティア活動について紹介する、内容を説明する、詳細を訪ねることを通して、ボランティア活動への参加を考える。	○	○	○	【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときにどのように役立つかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。	○	○	○	2
	単元 Lesson6 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、自分の住む町や地域について表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の住む町や地域について表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけ、積極的に表現する。	・関係代名詞の限定用法と非制限用法、関係副詞 ・地元の有名な人やものを紹介する、観光名所について説明する、名所をすすめる理由を説明することを通して、自分の住む町や地域について紹介する。	○	○	○	【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときにどのように役立つかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。	○	○	○	2
	定期考査						○	○		1

単元 Lesson7 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、世界の言語について表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 世界の言語について表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけ、積極的に表現する。	・副詞 ・言語の消滅について伝える、話者人口の動向を説明する、言語の多様性について語る、を通して世界の言語について考える。					【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときでどのように役立つのかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。				2
--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	---

単元 Lesson8 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、想像したことについて表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 想像したことについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけ、積極的に表現する。	・不定詞、分詞を作る表現 ・未来を想像する、予想する、ストーリーを想像することを通して、想像したことを伝える。	○	○	○	【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときにどのように役立つのかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。	○	○	○	2
単元 Lesson9 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、幸福とストレスについて表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 幸福とストレスについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけ、積極的に表現する。	・副詞節、目的・程度を表す表現 ・幸せや不安を感じる時のことを話す、ストレスの対処法について考える、幸福の要因について考える、を通して幸福とストレスについて考える。	○	○	○	【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときにどのように役立つのかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。	○	○	○	2
定期考査						○	○		1
単元 Lesson10 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、各国のデータについて表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 各国のデータについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけ、積極的に表現する。	・原級、比較級、最上級を使う比較表現 ・同じ、差を述べる、一番を述べることを通して各国のデータを比べる	○	○	○	【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときにどのように役立つのかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。	○	○	○	2
単元 Lesson11 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、多文化共生について表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 多文化共生について表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけ、積極的に表現する。	・仮定法過去、仮定法過去完了 ・現実と違う想像の話をする、過去の事実とは違う想像の話をする、願望やその時の事実とは違う様子を伝えることを通して、国際的な視野を持ち、多文化共生について考える。	○	○	○	【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときにどのように役立つのかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。	○	○	○	2

3 学 期	単元 Lesson12 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、日本の文化について表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日本の文化について表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけ、積極的に表現する。	・要求・必要を表す表現、認識の表現、時制の一致、語法 ・文化・伝統を伝える、食習慣を伝える、慣習について伝えることを通して日本の文化について考える。						【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときでどのように役立つのかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。	○	○	○	2
	定期考査								○	○		1
	単元 Lesson13 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、日本の人口問題について表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日本の人口問題について表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけ、積極的に表現する。	・「ある・いる」の表現、「なる・するようになる」の表現、「かかる」の表現 ・出生率について考える、少子高齢化について考える、時間や費用について考えることを通して、日本の人口問題について考える。						【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときでどのように役立つのかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。	○	○	○	2
	単元 Lesson14 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、権利と平等について表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 権利と平等について表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけ、積極的に表現する。	・使役動詞、分詞を使う「させる・される」の表現、知覚動詞・ジェンダーについて考える、人権問題について考える、多様性を認め合うことを通して、権利と平等について考える						【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときでどのように役立つのかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。	○	○	○	2
	単元 Lesson15 【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項を使って、世界の問題について表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 世界の問題について表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけ、積極的に表現する。	・「～すると…になる」の表現、「～が…させる」の表現、日本語と違う表し方 ・途上国の人々について考える、食品ロスについて考える、安全な水の確保について考えることを通して世界の問題について考える。						【知識及び技能】 既習の知識や新しく学んだ語彙・表現を活用して、様々なテーマについて英語で表現する知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 既習や新出の単語、表現、文法事項が英語で表現するときでどのように役立つのかを分析し、実際に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 様々なテーマについて表現するために必要な単語や表現、文法事項を主体的に身につけようとし、積極的に表現しようとしている。	○	○	○	2
	定期考査								○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A ガイダンス 【知識及び技能】 ・情報社会の進展に伴う社会生活の変化について理解する 【学びに向かう力、人間性等】 ・社会的な変化に対応するため、主体的に自ら学ぼうとする	・情報社会の変化（AIやIoTなど）に伴い、将来がどのように変化すると予想されているか ・インターネット上の記事 等 ・計画表の作成	【知識・技能】 ・情報社会の進展に伴う社会生活の変化について理解できたか（計画表の記載内容） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・社会的な変化に対応するため、主体的に自ら学ぼうとすることができたか（計画表の記載への取り組み方）	○		○	2
	B 情報社会 【知識及び技能】 ・CBT方式の小テストによる知識の定着 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に主体的に取り組む	・CBT方式の小テスト ・情報モラルに関する口頭試問	【知識・技能】 ・小テストに合格することができたか 【主体的に学習に取り組む態度】 ・主体的に課題に取り組むことができたか	○		○	8
	定期考査			○	○		1
	C 情報デザイン 【知識及び技能】 ・CBT方式の演習による知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 ・口頭試問において思考力・判断力・表現力のを発揮する 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に課題に取り組む	・口頭試問の作問実施 ・CBT方式の演習課題 ・スタディサブリの動画教材 ・ダッシュボード	【知識・技能】 ・CBT方式の演習で知識が定着したか（CBTの結果データ） 【思考・判断・表現】 ・口頭試問で思考力・判断力・表現力を発揮できたか（口頭試問の評価） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・積極的に課題に取り組んだか（課題の進	○	○		7
	D ネットワークの活用 【知識及び技能】 ・CBT方式の演習による知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 ・口頭試問において思考力・判断力・表現力のを発揮する 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に課題に取り組む	・口頭試問の作問実施 ・CBT方式の演習課題 ・スタディサブリの動画教材 ・ダッシュボード	【知識・技能】 ・CBT方式の演習で知識が定着したか（CBTの結果データ） 【思考・判断・表現】 ・口頭試問で思考力・判断力・表現力を発揮できたか（口頭試問の評価） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・積極的に課題に取り組んだか（課題の進	○	○	○	7
定期考査				○	○		1
2 学 期	E プログラミング 【知識及び技能】 ・動画等による知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 ・プログラミングの実習において思考力・判断力・表現力のを発揮する 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に課題に取り組む	・アルゴリズムからプログラミングに向けた考え方について ・一人1台端末によるプログラミング実習	【知識・技能】 ・動画等により知識が定着したか（実習課題） 【思考・判断・表現】 ・プログラミングの実習において思考力・判断力・表現力のを発揮できたか 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に課題に取り組むことができたか	○	○	○	14
	F データ分析 【知識及び技能】 ・動画等による知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 ・データ分析の実習において思考力・判断力・表現力のを発揮する 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に課題に取り組む	・データ収集から加工・分析に向けた考え方について ・一人1台端末によるデータ分析実習	【知識・技能】 ・動画等により知識が定着したか（実習課題） 【思考・判断・表現】 ・データ分析の実習において思考力・判断力・表現力のを発揮できたか 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に課題に取り組むことができたか	○	○	○	14
3 学 期	G ディスカッション・ディベート 【知識及び技能】 ・動画等による知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 ・死すカッション等の実習において思考力・判断力・表現力のを発揮する 【学びに向かう力、人間性等】	・ディスカッションにおける相互理解と合意形成の方法 ・ディベートにおける立論・反駁等に関する知識・技術について	【知識・技能】 ・動画等により知識が定着したか（実習課題） 【思考・判断・表現】 ・ディスカッション等の実習において思考力・判断力・表現力のを発揮できたか 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に課題に取り組むことができたか	○	○	○	8
	H プレゼンテーション 【知識及び技能】 ・動画等による知識の定着 【思考力、判断力、表現力等】 ・プレゼンテーション実習において思考力・判断力・表現力のを発揮する 【学びに向かう力、人間性等】	・プレゼンテーションにおける知識・技能について	【知識・技能】 ・動画等により知識が定着したか（実習課題） 【思考・判断・表現】 ・プレゼンテーション実習において思考力・判断力・表現力のを発揮できたか 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に課題に取り組むことができたか	○	○	○	8
							合計
							70